ディマージュ Z5

DiMAGE Z5

J 使用説明書

目次

撮影モード（続き）

動画撮影モード 73

動画の撮影方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

再生モード……79

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

セットアップモード……106

カメラの細かい設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

パソコンへの接続 121

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

その他 147

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- **●指定された電池以外は使わないでください。**
- **●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。**
- **●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。**
- **●電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。**
- **●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**
- **●アルカリ電池は充電しないでください。**
- **●充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。**
- **●万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

⚠警告

ＡＣアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

警告

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

ＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプター本体を持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。

太陽光が近くの物に決像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
電源を切ると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

ＡＣアダプター使用時は､電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ＡＣアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ＡＣアダプターをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

ＡＣアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
この製品は、光学12倍ズームに手ぶれ補正機能を搭載した、有効画素数約500万画素のデジタルカメラです。シャッターチャンスに強い動体予測機能搭載のジェットAF、テレビやビデオムービー並みの高画質動画など多彩な機能を持ちながら、大きく操作しやすいボタン類など使いやすさにも配慮して設計されています。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録（オンライン登録）をお済ませください。ユーザー登録は、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）のユーザー登録のページで行なうことができます。

このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（DiMAGE Z5）
　レンズキャップ LF-243、レンズキャップひも、
　アクセサリーシューキャップ SC-1000付き
ネックストラップ NS-DG7000
単3形アルカリ乾電池 4本
AVケーブル AVC-700
USBケーブル USB-2
16MB SDメモリーカード

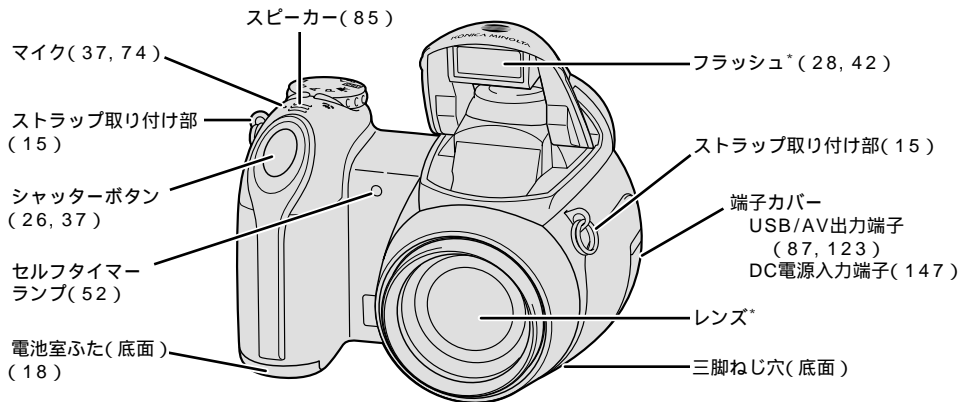
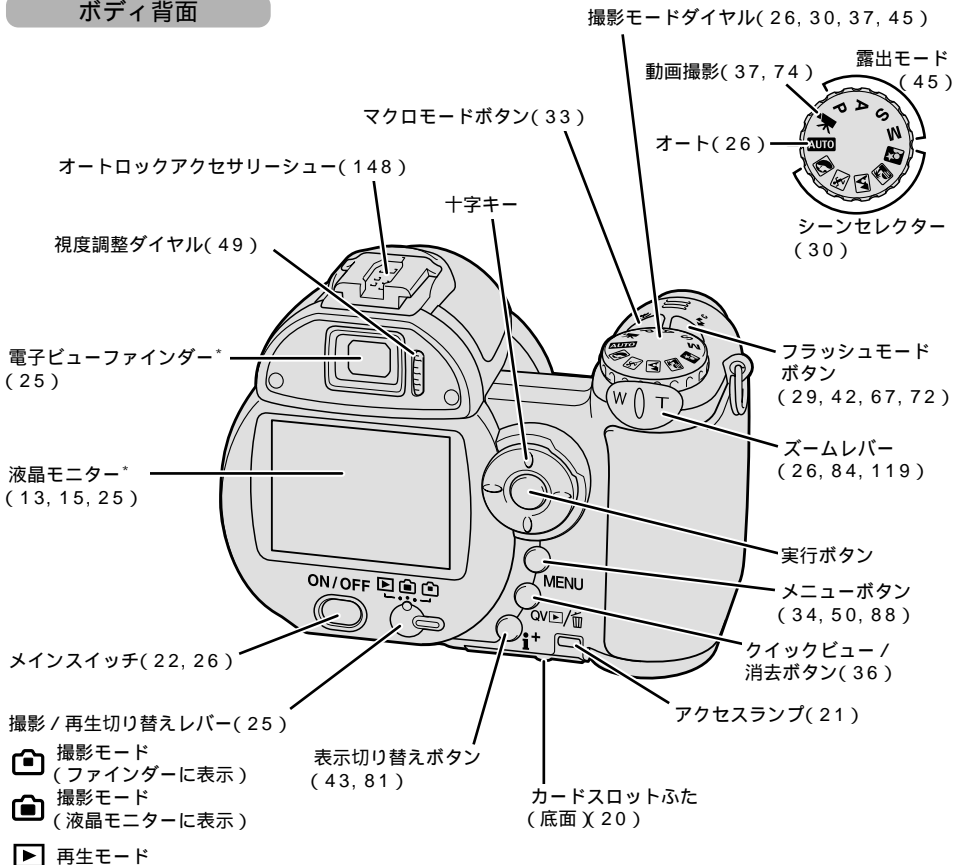
ディマージュ ビューアー CD-ROM
・DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューアー）
・Windows98/98SE用USBドライバ
・QuickTime Player
本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
コニカミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

各部の名称

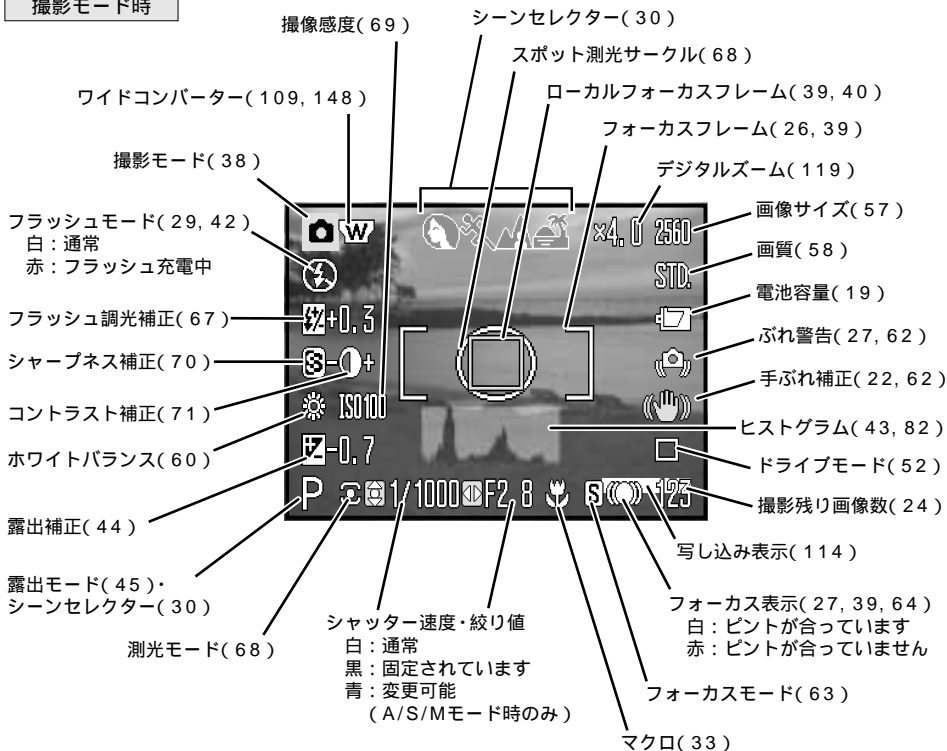
*の付いたところは、直接手で触れないでください。（　）内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ背面

撮影モードダイヤル（26, 30, 37, 45）
動画撮影（37, 74）
露出モード（45）
オート（26）
シーンセレクター（30）
マクロモードボタン（33）
オートロックアクセサリーシュー（148）
十字キー
視度調整ダイヤル（49）
電子ビューファインダー*（25）
フラッシュモードボタン（29, 42, 67, 72）
ズームレバー（26, 84, 119）
液晶モニター*（13, 15, 25）
実行ボタン
メニューボタン（34, 50, 88）
クイックビュー／消去ボタン（36）
メインスイッチ（22, 26）
アクセスランプ（21）
撮影／再生切り替えレバー（25）
撮影モード（ファインダーに表示）
撮影モード（液晶モニターに表示）
再生モード
表示切り替えボタン（43, 81）
カードスロットふた（底面）（20）
ON/OFF
MENU
QV
W
T
AUTO
P
A
S
M

電子ビューファインダー・液晶モニター

電子ビューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

撮影モード時

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

撮影モード・操作ガイド

液晶モニター下部に、次に行なう操作が表示されることがあります。

◀▶　十字キー左右
▲▼　十字キー上下
◀▲▼▶　十字キー上下左右
●　十字キー中央の実行ボタン
MENU ↩ メニューボタンで元に戻る

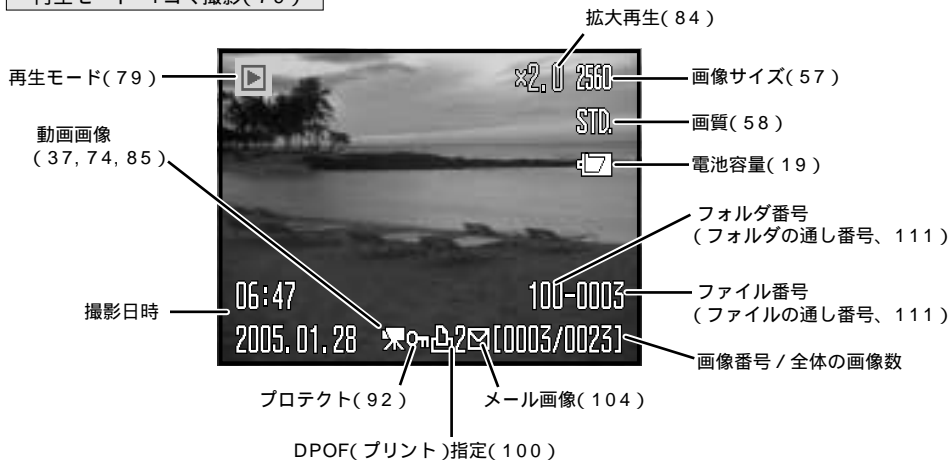
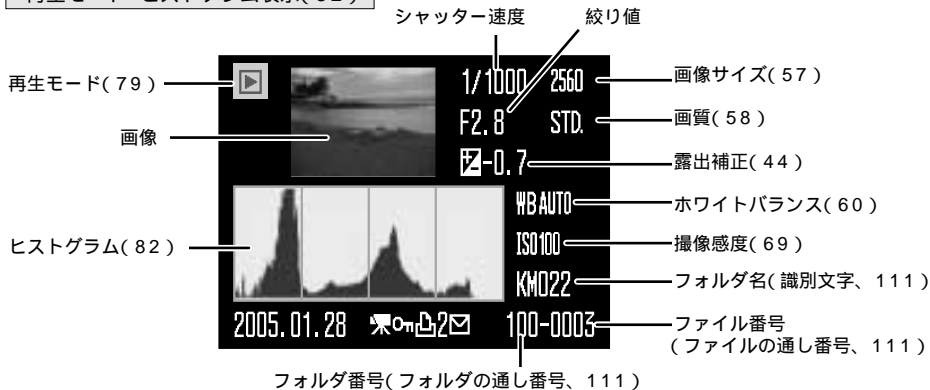
例（左図の場合）
十字キー左右で画像を選択し、十字キー上下で設定の有無を指定する。中央の実行ボタンを押せば操作が完了する。

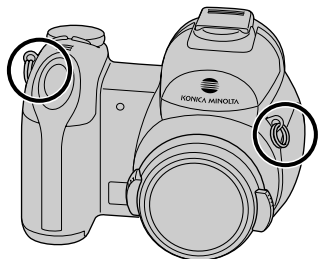
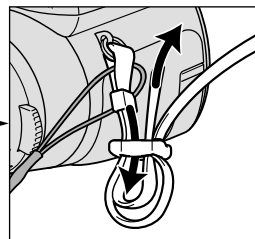
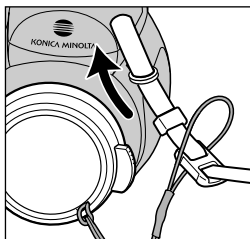
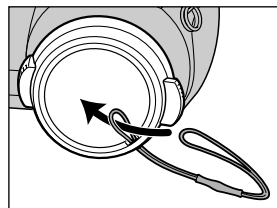
再生モード・1コマ撮影（79）

拡大再生（84）
再生モード（79）
画像サイズ（57）
画質（58）
動画画像（37, 74, 85）
電池容量（19）
フォルダ番号（フォルダの通し番号、111）
ファイル番号（ファイルの通し番号、111）
撮影日時
画像番号／全体の画像数
プロテクト（92）
メール画像（104）
DPOF（プリント）指定（100）

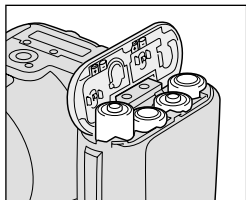
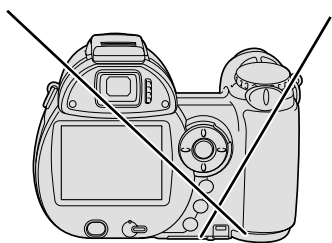
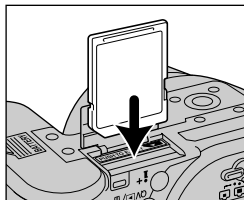
再生モード・ヒストグラム表示（82）

シャッター速度
絞り値
再生モード（79）
画像
画像サイズ（57）
画質（58）
露出補正（44）
ホワイトバランス（60）
ヒストグラム（82）
撮像感度（69）
フォルダ名（識別文字、111）
ファイル番号
（ファイルの通し番号、111）
フォルダ番号（フォルダの通し番号、111）

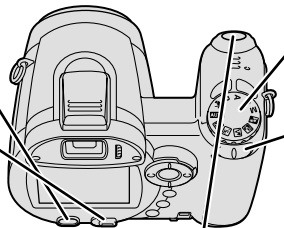
1/1000 2560
F2.8 STD.
-0.7
WB AUTO
ISO100
KM022
2005. 01. 28 2 100-0003

ストラップ／レンズキャップひもを取り付ける

付属のひもをあらかじめレンズキャップに取り付けておくと、レンズキャップの紛失防止に役立ちます。ひもは、使用説明書などが入っている袋に入っています。

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を入れます。→P.18

2. カードを入れます。→P.20

撮影する

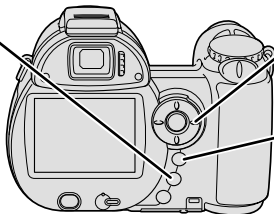
1. メインスイッチを入れます。→P.22

2. モード切り替えレバーを 📷 または 📷 に合わせます。→P.25

3. 撮影モードダイヤルが、AUTOまたはP位置にあるのを確認します。→P.26, 45

4. ズームレバーで撮りたいものの大きさを決めます。→P.26

5. シャッターボタンを押します。→P.27

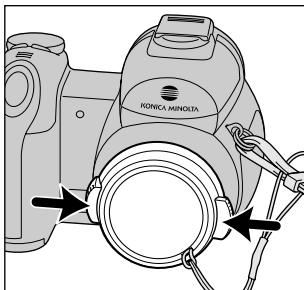
撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.36

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3. クイックビュー／消去ボタンを2回押して、元の撮影モードに戻ります。

準備と基本撮影

撮影前のカメラの準備と、撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

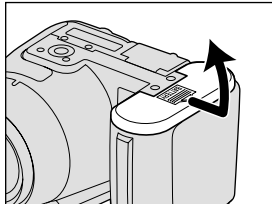
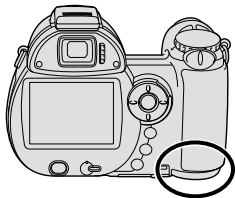
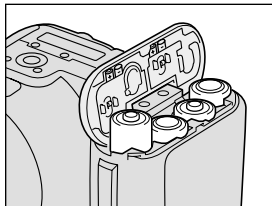
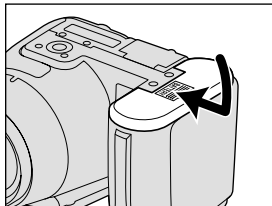
レンズキャップを取り外す

レンズキャップのつまみをつまんで、取り付け・取り外しを行ないます。

● 撮影後は、レンズキャップをはめて保管してください。

電池を入れる

このカメラは、単3形アルカリ乾電池、または単3形充電式ニッケル水素電池のいずれかを4本使用します。

- ニッケル水素電池は、指定の充電器でフル充電してからお使いください。
- マンガン電池等、他の単3形電池はこのカメラでは使用できません。

電池を入れる

1. カメラのメインスイッチが切れているのを確認してから、カメラ底面の電池室ふたを開けます。

2. ふたの裏側の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを元通りに閉めます。

- 最後まで確実に閉めてください。

- 「日付/時刻を設定してください」のメッセージが出たときは、日時の設定が失われています。[はい] を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面が現れます→P.22

電池容量の確認

メインスイッチを入れると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

(電池アイコン)	白色 (約3秒間)	電池容量は十分です。
(電池アイコン)	白色	電池容量が少なくなりました。
(電池アイコン)	赤色	電池の交換をおすすめします。まだ撮影はできます。
電池がなくなりました		新しい電池と交換してください。 シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池の向き（＋/－）を確認してください。
- 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプターの使用をおすすめします。→P.147
- 赤色 (電池アイコン) 点灯時は、UHS連続撮影、シャッターチャンス連写、動画撮影はできません。手ぶれ補正機能も作動しません。
- 電池容量がなくなったとき（上の表の一番下）は、その電池は再使用せず、すみやかに新しい電池と交換してください。

パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

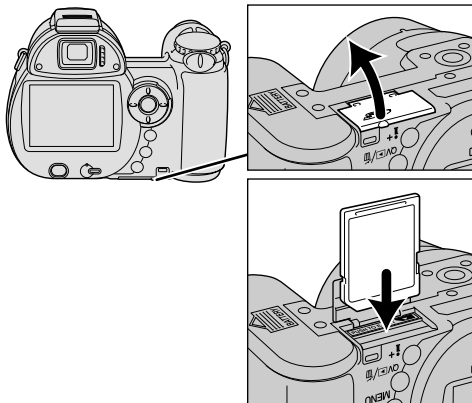
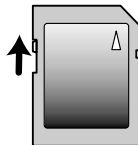
このカメラは、約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になります（パワーセーブ）。メインスイッチや十字キーを押すか、シャッターボタンを半押しすれば、撮影が再開できます。

- パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）は変更することができます。→P.108
- 液晶モニターは、約1分間何も操作しないでいると、パワーセーブまでの時間に関係なく自動的に消灯します。
- 30分以上何も操作をしないでいると、完全に電源が切れます。撮影を再開するには、メインスイッチを押してください。

カードを入れる／取り出す

カードを入れる

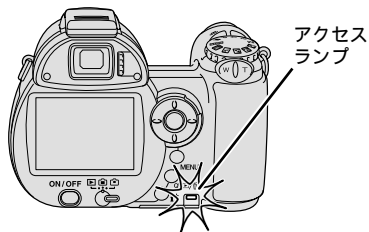
画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

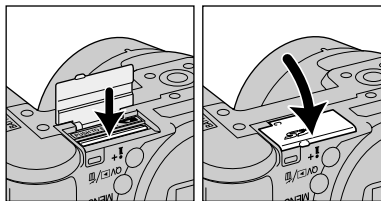
- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチを上に上げてください。

1. カメラの電源が切れているのを確認してから、カメラ底面のカードスロットふたを開けます。

2. カードのラベルをカメラの背面側（液晶モニター）、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。
- 中央をまっすぐに押し込みます。斜めに押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

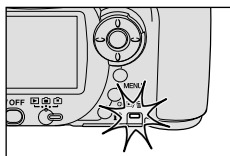
3. ふたを元通り閉めます。
- 閉まらない場合は、次ページの要領でカードを一度押し込んでから取り出し、正しく入れ直してください。

- カードを入れずに撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。この状態でもシャッターは切れますが、画像は保存できません。
- マルチメディアカードを使用すると、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。
- 液晶モニター右下に「----」が現れたり、「このカードは使えません」というメッセージが表示される場合は、カードの上下や裏表を逆に入れていないかを確認してください。

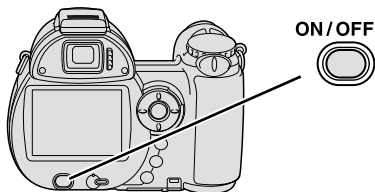
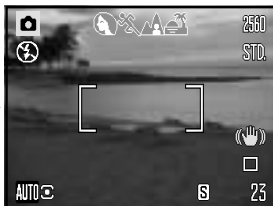
カードを取り出す

1. カメラの電源を切り、アクセスランプが消えているのを確認した後、前ページの要領でカードスロットふたを開けます。

アクセスランプが赤く点灯している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

● カードが少し出てきます。

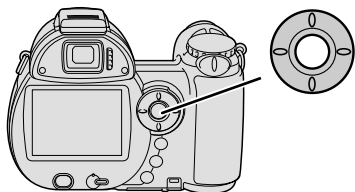
3. カードを取り出し、ふたを元通り閉めます。

アクセスランプ

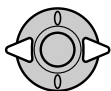
撮影後やメインスイッチON/OFF時には、カメラ背面のアクセスランプが赤く点灯します。点灯中は、カードを取り出したり、電池やACアダプターを抜いたりしないでください。画像データ破損の原因となります。

電源（メインスイッチ）を入れる

カメラ背面のメインスイッチを押すと、電源が入ります。

電源が入ると、手ぶれ補正機能が作動中であることを表す ON が表示された後、通常の撮影画面が現れます。

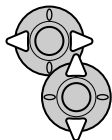
日付と時刻を設定する

左のメッセージが出る場合は、日付と時刻が設定されていません。ご使用前に設定してください。

※メニュー画面で日付と時刻を設定・変更する場合は →P.114

1. [はい] が選択されているのを確認してから、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● [いいえ] になっている場合は、十字キー左側で [はい] を選択してから実行ボタンを押してください。

2. 十字キーの左右で修正したい項目を選びます。

3. 十字キーの上下で数値を変更します。

● 押し続けると数値が早送りされます。

4. 必要なだけ、2、3の操作を繰り返します。

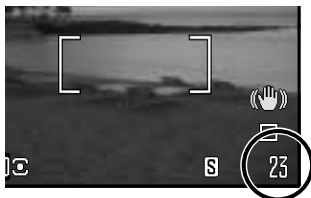
●「年/月/日」は年月日の並び順を表します。

5. 修正が終わったら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 時計がスタートします。

● 途中でメニューボタンを押すと、日時設定はキャンセルされます。

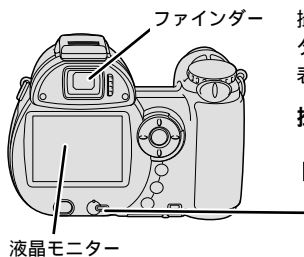
● カメラの電池を入れると、日付・時刻記憶用の内蔵バックアップ電池の充電が開始されます。フル充電するには約24時間かかります（その間メインスイッチはOFFにできます）。フル充電後は、カメラの電池を抜いている間でも、内蔵バックアップ電池が約24時間設定を記憶しているので、この間に電池交換を行なってください。カメラの電池を長時間抜いて設定が消えてしまった場合は、このページの要領で再設定してください。

撮影できる画像数

カードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れると、画面右下におおよその撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量や、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として、付属の16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約9枚です（画像サイズ2560×1920、画質スタンダード時）。

- 画像サイズや画質を変更した場合、また動画を撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は→P.57～59
- カードがいっぱいになったときは、「カードに空きがありません」のメッセージが現れます。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。
- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数が変化しない場合もあります。
- 旅行など撮影枚数の多い場合は、予備のカードを用意されることをおすすめします。

カメラを構える

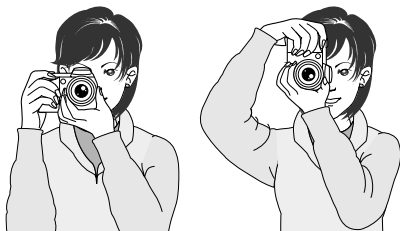
画像の表示場所

撮影される画像は、カメラ背面の電子ビューファインダー（以下ファインダー）または液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。表示場所を変更することもできます。

撮影／再生切り替えレバーで、画像の表示場所を選びます。

撮影画像がファインダーに表示されます。

撮影画像が液晶モニターに表示されます。

再生モードです。→P.79

ファインダーを見て撮影する

カメラが動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。ファインダーでの撮影と比べて手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

フルオートで撮影する

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

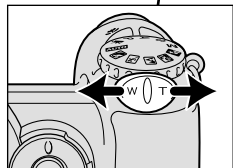
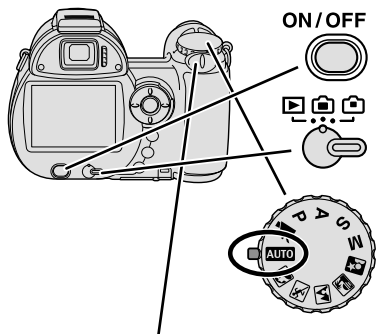
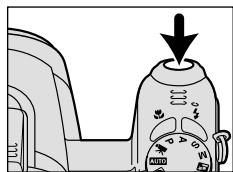
1. メインスイッチを押して電源を入れます。

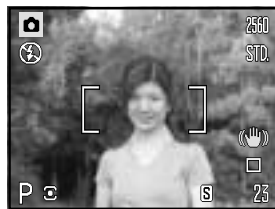
2. 撮影／再生切り替えレバーを、 または に合わせます。

3. 撮影モードダイヤルをAUTOに合わせます。

- フルオート撮影になります。
- フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.28

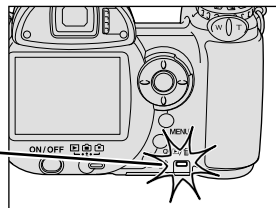
4. ズームレバーで写したいものの大きさを決めます。

- レバーを右（T側）へ動かすと大きく写り、左（W側）へ動かすと広い範囲が写ります。画面上部のズーム表示が、現在のおおよそのズーム位置をお知らせします。

5. 写したいものに［ ］を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

● 半押しすると、ピントの合った場所が赤い□で表示され、画面右下に白い○（フォーカス表示）が点灯します。

6. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 撮影された画像が自動的にカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが赤く点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

アクセスランプ

● カメラから、ズーム広角側で約60cm以上、望遠側で約1.6m以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影またはスーパーマクロ撮影を行なってください。→P.33

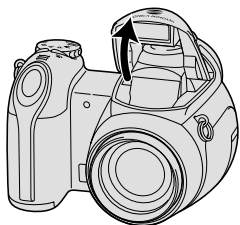
● 撮影後シャッターボタンから指を離さずにそのまま押し続けていると、その間撮影した画像が液晶モニターに表示されます。　※撮影後常に一定の間表示させるには →P.109、アフタービュー

● シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニター		状況
○	白色	**ピントが合って固定されています。撮影できます。**
●	赤色	**ピントが合わないか、撮りたいものに近づき過ぎています。 撮影はできます。→P.39**
	白色	**シャッター速度が遅く、カメラぶれや被写体ぶれの恐れがあります。 フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。→P.62**
		（左のうちいずれか1つが表示） フルオートシーンセレクターで選ばれているシーンです。→P.30

● 撮影後は、メインスイッチを少し長めに押して電源を切ってください。電源を切るとレンズが収納されるので、レンズ部分を持たないようにしてください。

● レンズキャップを付けて保管してください。

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。フラッシュが上がっているときは、フラッシュモードの変更が可能です。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュモード表示が赤くなっている間は、フラッシュが充電中です。白色に戻る（＝充電が完了する）のを待ってから撮影してください。

フラッシュ光が被写体に届いたときは、撮影後、画面左上に OKが点灯します。この表示が出なかった場合は、フラッシュ光が被写体に届かず、暗く写ります。次ページのフラッシュ光の届く距離を確認してください。

● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。

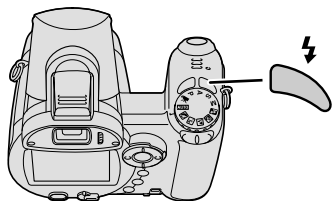
フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.6m、最望遠側では2.2mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

広角側：0.2〜3.6m
望遠側：1.2〜2.2m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→P.69

フラッシュモード

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、以下のフラッシュモードが選べます。

	暗いときなど必要時には自動的に発光します。（自動発光）
	人の目が赤く写るのを和らげます。必要時には自動的に発光します。（赤目軽減自動発光）
	必ず発光します。（強制発光）
	夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります（スローシンクロ）。→P.42
	フラッシュは発光しません（発光禁止）。フラッシュを下げているとこの表示が現れます。

シーンセレクター

撮影モードダイヤルAUTO位置では、画面の上側に撮影場面を表す絵表示が並びます。そのまま撮影すると、カメラが撮影場面を判断し、自動的にその場にふさわしい設定が行われます（フルオートシーンセレクター）。

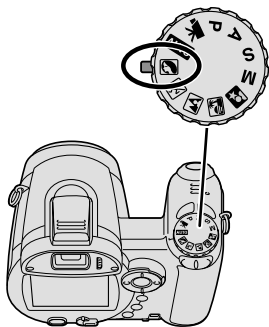
● 撮影者が自分で目的のシーンを選ぶこともできます。

フルオートシーンセレクター

シャッターボタンを半押しすると、レンズの焦点距離や被写体までの距離などからカメラが撮影場面を判断し、その場面にふさわしい設定が自動的に行われます。

● 半押しすると、カメラが選んだ場面が液晶モニターに表示されます。どの場面にも当てはまらなかった場合は、標準的な一般撮影となります。

● フルオートシーンセレクターを解除することもできます。→P.34〜35

目的のシーンを選ぶ

撮影者が自分で目的の撮影シーンを選ぶことができます。上記の4つに加え、夜景ポートレート・夜景を選ぶこともできます。

撮影モードダイヤルを回して、撮影したい場面の絵表示を選びます。

● 液晶モニター左下にも同じ絵表示が現れます。

- **ポートレート**
- **スポーツ**
- **風景**
- **夕景**
- **夜景ポートレート・夜景**

● 選んだ撮影シーンに応じて、カメラが自動的に撮影の設定を行ないます。そのため、撮影者が設定を変更できない場合もあります。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

- このモードでは、動く被写体にピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押ししなくても常にピント位置が調整され続けます（フルタイムAF、→P.66）。またシャッターボタンを半押しすると、動いている被写体にピントを合わせ続けます（コンティニュアスAF、→P.64）。

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに [icon] が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

次ページへ続く

夕景

夕焼けを赤く美しく描写します。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

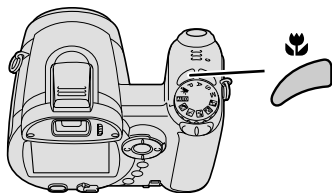
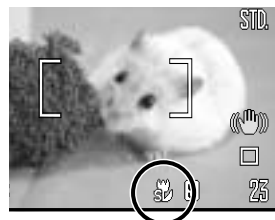
- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュを下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はレンズキャップを取り付けてください。

夜景・夜景ポートレート

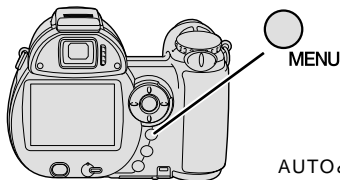
黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

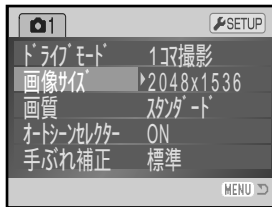
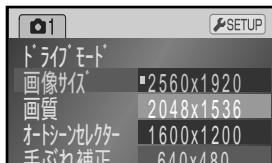
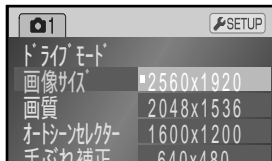
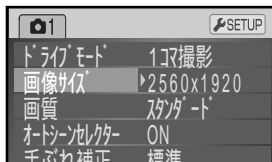
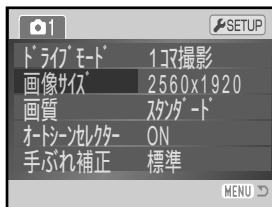
- 人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。
- フラッシュ光の届く範囲は、広角側で0.2～2.9m、望遠側で1.2～1.8mとなります（撮像感度AUTO時）。

近くのものを撮影する（マクロ・スーパーマクロ）

レンズ先端から広角側で約60cm、望遠側で約1.6m以内のものを撮影する場合は、そのままだとピントが合わないので、マクロ撮影またはスーパーマクロ撮影を行なってください。

マクロモードボタンを押すと、以下のマクロモードが選べます。

	マクロモード **レンズ先端より、広角側で約10cm〜1m、望遠側で約1.2m〜2.5mの被写体にピントが合います。**
	スーパーマクロモード **レンズ先端より約1cm〜100cmの被写体にピントが合います。ズーム位置は自動的に固定されます。**
表示なし	**マクロ機能解除**

- シャッターボタンを半押ししたときに、画面右下に白い ○（フォーカス表示）が点灯すれば、被写体は上記の範囲内にあってピントは合っています。上記の範囲外でピントが合わない場合は、赤い ● が点灯します。
- スーパーマクロモードで約20cm以内の被写体を撮影する場合は、フラッシュは発光させないでください。
- マクロ撮影等近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。三脚の使用をおすすめします。

メニューで設定を変える

撮影モードダイヤルがAUTOまたはシーンセレクター位置にあるときに、メニューボタンを押すと、右のメニュー画面が現れてメニューの設定ができます。

● AUTOとシーンセレクターで、メニューの内容が一部異なります。

1. メニューボタンを押した後、十字キーの上下で希望の項目を選びます。

2. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

3.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

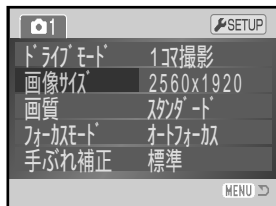
● 実行ボタンの代わりに十字キーの左側を押すと、変更はキャンセルされます。

5. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

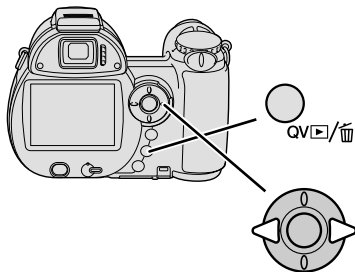
● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

撮影モードダイヤルがAUTOまたはシーンセレクター位置のときのメニューは、以下の通りです。詳細については、各該当ページをご覧ください。

○印は初期設定値です。

ドライブモード（P.52）	○1コマ撮影 セルフタイマー 連続撮影 シャッターチャンス連写 ブラケット撮影	通常の1コマ撮影、セルフタイマー、シャッターボタンを押している間撮影され続ける連続撮影など、シャッターを切るタイミングをコントロールします。
画像サイズ（P.57）	○2560×1920 2048×1536 1600×1200 640×480	大きくプリントするときは大きいサイズ、ホームページの画像用には小さいサイズなど、画像サイズを選ぶことができます。
画質（P.58）	ファイン ○スタンダード エコノミー	画像加工用のファイン、ファイルサイズの小さいエコノミーなど、画像の圧縮率を選ぶことができます。
オートシーンセレクター（P.30）*	○ON OFF	フルオートシーンセレクターの機能を解除することができます。
フォーカスモード（P.63）*	○オートフォーカス マニュアルフォーカス	マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）が選べます。
手ぶれ補正（P.62）	○標準 露光中のみ なし	初期設定では手ぶれ補正は機能します。その設定を変えたり、解除したりすることができます。

* オートシーンセレクターは撮影モードダイヤルがAUTO位置、フォーカスモードは撮影モードダイヤルがシーンセレクター位置の場合のみ表示されます。

撮影モードダイヤルが
シーンセレクター位置の場合

撮った画像を見る（クイックビュー）

クイックビュー／消去ボタンを押すと、撮った画像がすぐに確認できます。気に入らなければ消去することもできます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
● 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3. クイックビュー／消去ボタンを2回押して、通常の撮影モードに戻ります。

● クイックビューでも再生モードと同じく、画面表示の切り替えや動画再生等が可能です。→P.79～87
再生モードメニュー（P.88～）の設定はできません。

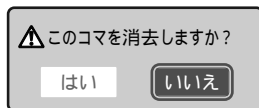
画像を手早く消去する

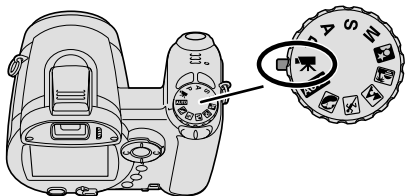
1. 上記2の十字キー左右で消去したい画像を選んだ後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
● 右の画面が現れます。

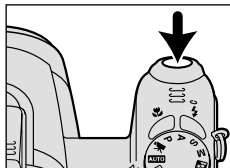
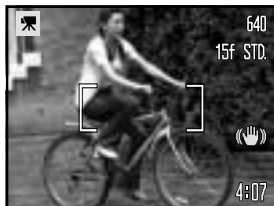
2. 十字キーの左側で［はい］を選びます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
● 選んだ画像が消去されます。
● この後、続けて画像を消去することもできます。

4. クイックビュー／消去ボタンを2回押して、通常の撮影モードに戻ります。
● メニューボタンや、シャッターボタンの半押しでも戻ります。

※複数の画像を一度に消去するには →P.90

動画を撮影する

動画の撮影を行なうことができます。音声（モノラル）も同時に記録されます。

1. 撮影モードダイヤルを🎥に合わせます。

● 画面右下に、撮影可能な残り時間（分：秒）が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は●Recが表示され、残り時間が減っていきます。

● 動画撮影中のズームも可能です。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

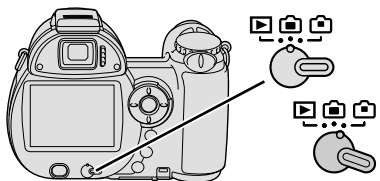
● 残り時間が00：00になる（＝カードがいっぱいになる）と、シャッターボタンを押さなくても自動的に撮影が終了します。

動画を再生する

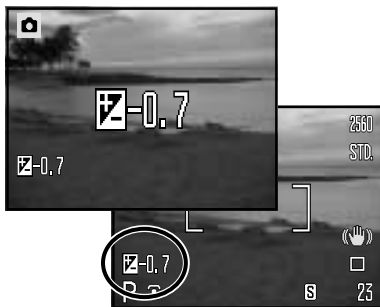
1. 再生モード▶またはクイックビュー（P.36）で、再生したい動画を選びます。

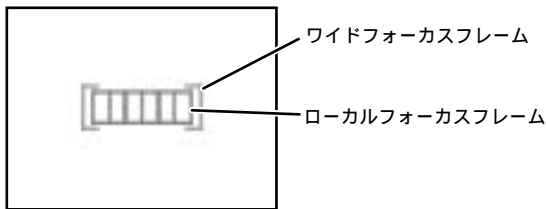
2. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 最後まで再生されると、自動的に開始画面に戻ります。途中で終えるときはメニューボタンを押してください。

※その他の動画再生中の操作について →P.85～86

撮影モード

この章では、撮影モードでの各種設定について説明しています。撮影／再生切り替えレバーは、[camera icon] または [camera icon] 位置に合わせてください。

撮影モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に [camera icon] が現れます。

撮影モードで設定を変更すると、変更した値または設定が画面中央に表示される場合もあります。十字キー中央の実行ボタンで設定を終了させると、表示は小さくなります。

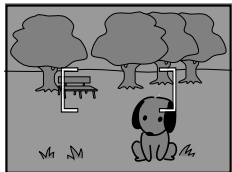
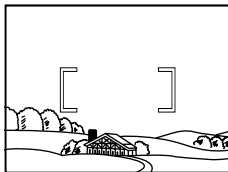
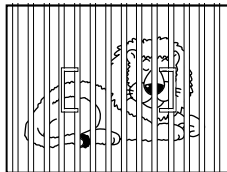
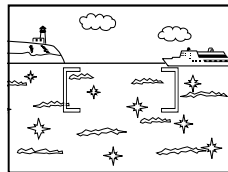
ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が5個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った部分のセンサーが赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

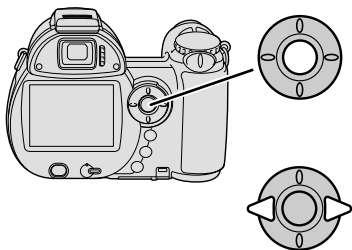
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、液晶モニターまたはファインダー内のフォーカス表示 ○ がピントの状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
○ **白色**	ピントが合って固定されています。撮影できます。
● **赤色**	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 **撮りたいものに近づき過ぎていませんか？** カメラから、ズーム広角側で約60cm、望遠側で約1.6m以上離れたものにピントが合います。それより近くの物を撮影するときは、マクロ撮影またはスーパーマクロ撮影を行なってください。→P.33 **被写体が［　］から外れていませんか？** ［　］から外れるとピントが合いません。 **被写体が動いていませんか？** 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→P.64 **オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？** オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.41）またはマニュアルフォーカス撮影（P.65）を行なってください。

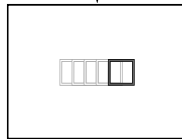
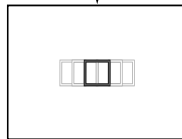
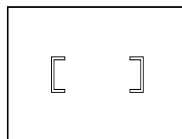
オートフォーカスの苦手な被写体

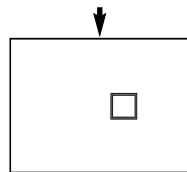
オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、液晶モニターに赤色の ● が点灯します。このような場合は、フォーカスロック撮影（P.41）またはマニュアルフォーカス撮影（P.65）を行なってください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[ ] の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

ローカルフォーカスフレームの選択

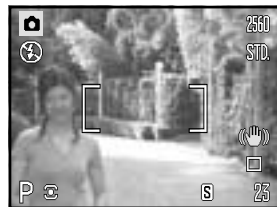
ワイドフォーカスフレーム [ ] の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が5つあります。通常はどのフレームが使われるか自動的に決まりますが、ご自分で任意のフレームを選ぶこともできます。

1. 十字キー中央の実行ボタンを、約1秒間押し続けます。

2. 十字キーの左右で、ピントを合わせたいフレームを選びます。

● 選んだフレームが青くなります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

4. シャッターボタンを押して撮影します。
- ピントが合うと、フレームは赤くなります。

- 再度十字キー中央の実行ボタンを約1秒押し続けると、ワイドフォーカスフレームに戻ります。
- デジタルズーム時（P.119）には、フレームを選択することはできません。

被写体が［　］に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが画面中央の［　］に入らないときに、そのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

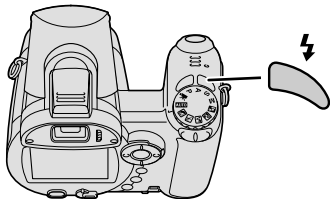
- 画面右下に白い ○ が点灯します。
- ピントと同時に露出も固定されます。シャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュ撮影の基本については、「準備と基本撮影」のフラッシュ撮影の項目をご覧ください。→P.28

フラッシュモード

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、撮影モードダイヤルの位置により、それぞれ以下のフラッシュモードが選べます。

撮影モードダイヤルが、AUTO、P、またはシーンセレクター位置のとき（P.29と同様）

AUTO	暗いときなど必要時には自動的に発光します。（自動発光）
◎AUTO	人の目が赤く写るのを和らげます。必要時には自動的に発光します。（赤目軽減自動発光）
	必ず発光します。（強制発光）
SLOW	夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写します。（スローシンクロ）
	フラッシュは発光しません（発光禁止）。フラッシュを下げているとこの表示が出ます。

撮影モードダイヤルが、A、S、M位置のとき

	必ず発光します。（強制発光）
◎	人の目が赤く写るのを和らげます。必ず発光します。（赤目軽減強制発光）
SLOW	夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写します。（スローシンクロ）
	フラッシュは発光しません（発光禁止）。フラッシュを下げているとこの表示が出ます。

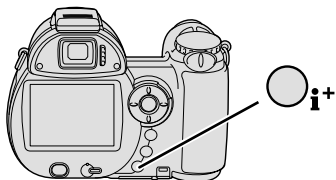
スローシンクロ撮影

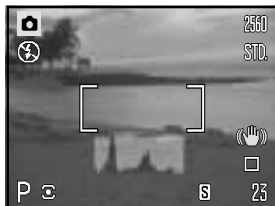
上記でスローシンクロ撮影を選ぶと、夜景を背景とした人物撮影ができます。シーンセレクターの「夜景ポートレート」と効果は同じです。

● スローシンクロ撮影時は、フラッシュはかならず赤目軽減発光になります。
● シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

画面表示の切り替え（撮影モード時）

画面内の表示やヒストグラムの有無を切り替えることができます。

※個々の表示内容について →P.13

表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

● この使用説明書では、「撮影情報あり」（左端）で説明しています。
●「画像のみ」でも、赤色の警告表示、フォーカス表示、フルオートシーンセレクター等、一部の表示は現れます。
● このカメラでは、暗いところでは液晶モニターを見やすくするため、モニター感度が自動的に上がります。画面が粗くなりますが、撮影される画像には影響ありません。

撮影前のヒストグラムについて

● 撮影前に表示されるヒストグラムは、その時に液晶モニター／ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。よって、ライブビュー画像と実際に撮影される画像の明るさが異なる場合（フラッシュ発光時や、暗いところでモニター感度が自動的に上がっている時）は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→P.82
● 被写体の状況や画像処理により、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

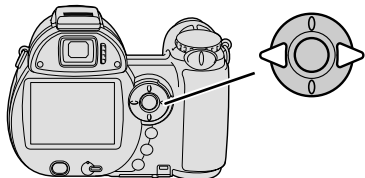
※ヒストグラムについて →P.83

露出補正

撮影される画像を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で1/3段ごとに設定できます。
＋側にすると画像が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画像が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

● 撮影モードダイヤルがAUTO位置のときは、露出補正はできません。

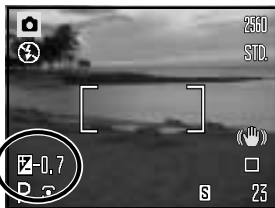
露出補正＋側

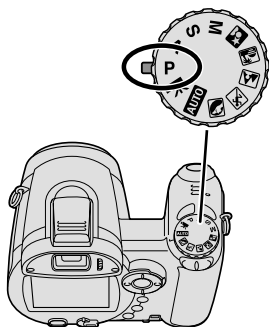
露出補正－側

1. 十字キーの左右どちらかを1回押します。

● 現在の設定値が表示されます。

2. 十字キーの左右で希望の数値を選びます。

● 右を押すと明るくなります（＋側に露出補正）。
左を押すと暗くなります（－側に露出補正）。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定後、画面左下に数値が表示されます。
● 露出補正を解除するときは、同じ要領で±0に設定してください。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。撮影モードダイヤルで露出モードを変えると、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

P（プログラム）モード	シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。
A（絞り優先）モード	希望の絞り値を決めることができます。→P.46
S（シャッター速度優先）モード	希望のシャッター速度を決めることができます。→P.47
M（マニュアル）モード	希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.48

● A、S、Mモードでは、フラッシュは自動発光しません（上げていると必ず発光します）。→P.42

P（プログラム）モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができるので、スナップ写真など一般撮影に最適です。

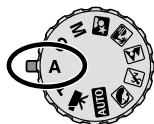
AUTOとPモードの違い

撮影モードダイヤルをAUTO位置にすると、AUTO位置以外で行なった主な設定が一時的にキャンセルされ、オート（自動）撮影になります。メニュー項目が減り、露出補正など設定できない機能もあります。フルオートシーンセレクターも、AUTO位置でのみ作動します。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。
Pモードでは、すでに行なった設定が保持され、メニューを含めカメラのすべての機能が活用できます。カメラに何か設定を加えて撮影することが多いときは、AUTOでなくPモードをおすすめします。

A（絞り優先）モード

**撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に8などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。**

絞り値が小さいとき（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき（絞りを絞り込んだとき）

1. 撮影モードダイヤルをAに合わせます。

● 絞り値が青く表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望の絞り値を選びます。

● 以下の範囲から選ぶことができます。数値は1/3段刻みで変わります。
広角側：2.8～8.0
望遠側：4.5～8.0

十字キーの上下で設定する、の意味

● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内で絞り値を設定してください。

S（シャッター速度優先）モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき
（流し撮りの例）

1. 撮影モードダイヤルをSに合わせます。

- シャッター速度が青く表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

- 4秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。2 ″、4 ″など「 ″ 」の文字が出ている場合は、それぞれ2秒、4秒を表します。

十字キーの上下で設定する、の意味

- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。
- Sモードでは、カメラぶれ・被写体ぶれを表す は表示されません。
- シャッター速度を遅くすると、自動的にノイズ軽減処理が行われます。→ノイズリダクション、P.49

M（マニュアル）モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

● 4秒～1/1000秒の範囲から選ぶことができます。

3. 十字キーの左右で、希望の絞り値を選びます。

● 以下の範囲から選ぶことができます。
広角側：2.8～8.0
望遠側：4.5～8.0

● Mモードで、そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が赤く点灯します。
● Mモードでは、撮像感度（P.69）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
● Mモードでは、カメラぶれ・被写体ぶれを表す は表示されません。
● シャッター速度を遅くすると、自動的にノイズ軽減処理が行われます。→ノイズリダクション、P.49
● Mモードでの露出補正（P.44）はできません。

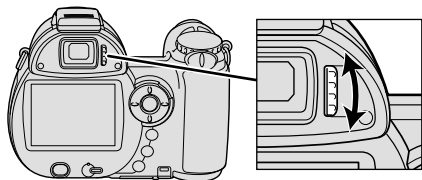
ノイズリダクションについて

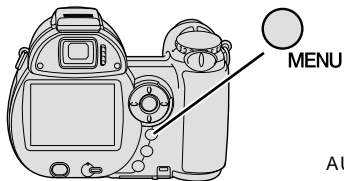
シャッター速度が遅い、撮像感度が高い、使用温度が高いなどの状況によりノイズが発生しやすくなると、撮影後自動的にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。処理時間が一定以上になると、液晶モニターに「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。実行中は次の撮影はできません。

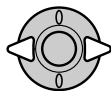
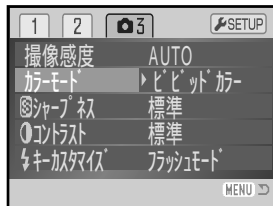
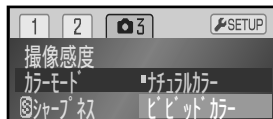
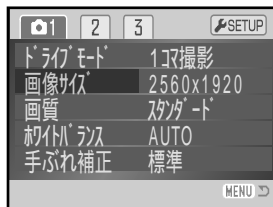
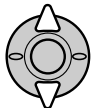
⌛ノイズリダクション実行中

ファインダーの視度調整

近視等によりファインダーの像がはっきり見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

● ファインダーのみに有効です。液晶モニターの像には影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきりと見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

撮影モードメニュー

撮影モードダイヤルがP、A、S、M位置にあるときに、メニューボタンを押すと、右の画面が現れて、撮影モードメニューの設定ができます。

※AUTOまたはシーンセレクター位置でのメニューについて →P.34

1. メニューボタンを押した後、十字キーの左右で、設定したい項目のあるタブ（ 1～ 3）を選びます。

2. 十字キーの上下で希望の項目を選びます。

3. 十字キーの右側で、設定内容を表示させせます。

4.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 実行ボタンの代わりに十字キー左側を押すと、選んだ設定は解除されます。

MENU

6. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

📷1	
ドライブモード（P.52）	○1コマ撮影 セルフタイマー 連続撮影 シャッターチャンス連写 ブラケット撮影
画像サイズ（P.57）	○2560×1920 2048×1536 1600×1200 640×480
画質（P.58）	ファイン ○スタンダード エコノミー
ホワイトバランス（P.60）	カスタム設定 カスタム呼び出し ○AUTO プリセット
手ぶれ補正（P.62）	○標準 露光中のみ なし

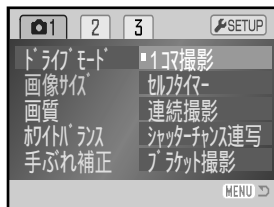
📷2	
フォーカスモード（P.63）	○ワンショットAF コンティニュアスAF マニュアルフォーカス
フルタイムAF（P.66）	あり ○なし
フラッシュモード（P.67）	○自動発光 赤目軽減自動発光 強制発光 赤目軽減強制発光 スローシンクロ
調光補正（P.67）	−2.0〜＋2.0、○±0
測光モード（P.68）	○多分割 中央重点平均 スポット

📷3	
撮像感度（P.69）	ISO 320 ISO 200 ISO 100 ISO 50 ○AUTO
カラーモード（P.70）	○ナチュラルカラー ビビッドカラー モノクロ セピア
シャープネス（P.70）	ハード（＋） ○標準 ソフト（−）
コントラスト（P.71）	強い（＋） ○標準 弱い（−）
キーカスタマイズ（P.72）	○フラッシュモード ドライブモード ホワイトバランス フォーカスモード カラーモード 撮像感度

○印は初期設定値です。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターレリーズの方法を変更することができます。

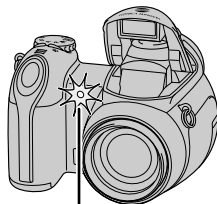
	1コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。
	セルフタイマー撮影	シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。→P.52
	連続撮影	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。UHS連続撮影では高速で撮影されます。→P.53
	シャッターチャンス連写	シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影され、シャッターボタンを離す直前の20コマのみ記録されます。→P.55
	ブラケット（ずらし）撮影	露出を自動的にずらした写真が3枚できます。→P.56

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1. P.50の要領でセルフタイマーを選びます。

MENU → 1 → ドライブモード → 右へ → セルフタイマー → ●実行 → MENU

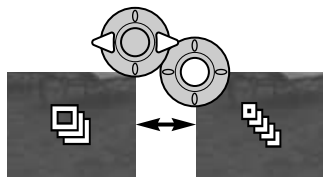
2. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。他の操作音も含めて、音を消すこともできます。→P.117

セルフタイマーランプ

- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、ズームレバーを動かしてください。
- シャッターボタンを押して2秒後にシャッターが切れる2秒セルフタイマーもあります。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。→P.120

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。毎秒約2.2コマの速度で撮影できます。UHS*連続撮影では、毎秒約10コマの速度で、最大20コマまで連続して撮影できます。画像サイズは1024×768画素に固定されます。

*UHS = Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

通常の連続撮影　UHS連続撮影

1. P.50の要領で連続撮影を選びます。

MENU → 📷1 → ドライブモード → 右へ → 連続撮影 → ●実行

2. 十字キーの左右で、通常の連続撮影またはUHS連続撮影を選び、中央の実行ボタンを押します。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

通常の連続撮影の場合

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。（コンティニュアスAF時は1コマごとに決定）
- コンティニュアスAF時、シャッター速度が遅いとき、電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の［電池マーク］が点灯）や、カメラの温度が上がったときは、連続撮影の速度が落ちます。
- カメラ内部のメモリ容量の関係上、連続撮影の枚数には上限があります（以下参照）。

	2560x1920	2048x1536	1600x1200	640x480
エコノミー	8枚	18枚	38枚	143枚
スタンダード	6枚	9枚	17枚	122枚
ファイン	3枚	4枚	6枚	38枚

※これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるので、あくまでも目安です。

次ページへ続く

UHS連続撮影の場合

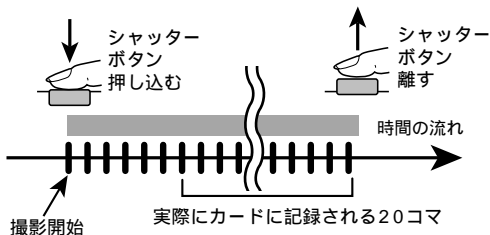
UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、

- 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影はできません。
- カメラ内部のメモリ容量の関係上、連続で撮影できるコマ数は最大20コマです。

- 画像サイズは1024×768画素に固定されます。
- フラッシュ撮影はできません.。自動的に発光禁止になります。
- 撮影残り画像数が3枚以下の場合は、「カードに空きがありません」のメッセージが出て、UHS連続撮影はできません。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- 撮像感度は自動的に高感度寄りに設定されます。手動での設定はできません。
- デジタルズーム（P.119）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。SモードやMモードで1/25秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/25秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→P.46

シャッターチャンス連写

シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われますが、すべての画像が記録されるのではなく、シャッターボタンを離す直前の20コマ*だけが記録されます。テニスやゴルフのフォームのチェックなど、過去にさかのぼって動きを追いかける連続したシーンの撮影に効果的です。毎秒約10コマの速度で最大20コマ*、約2秒前までさかのぼって記録できます。

* シャッターボタンを離すタイミングが早いと、20コマ記録できません。

1. P.50の要領でシャッターチャンス連写を選びます。

MENU → 1 → ドライブモード → 右へ → シャッターチャンス連写 → ●実行 → MENU

2. シャッターボタンを押し続け、記録を終了したいタイミングで離します。

● 撮影後は、実際に記録される画像が順に小さく、液晶モニター／ファインダーに表示されます。

● 画像サイズは1024×768画素に固定されます。
● フラッシュ撮影はできません.。自動的に発光禁止になります。
● 撮影残り画像数が20枚以下の場合は、「カードに空きがありません」のメッセージが出て、シャッターチャンス連写はできません。
● ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
● 撮像感度は自動的に高感度寄りに設定されます。手動での設定はできません。
● デジタルズーム（P.119）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
● 低速のシャッター速度での撮影はできません。SモードやMモードで1/25秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/25秒に変更されます。
● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、シャッターチャンス連写はできません（シャッターは切れません）。
● 他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
● 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→P.46

ブラケット（ずらし）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、露出を自動的にずらした写真が3枚撮れます。

1. P.50の要領でブラケット撮影を選びます。

MENU → 📷1 → ドライブモード → 右へ → ブラケット撮影 → ●実行

2. 十字キーの左右でずらし量を選び、中央の実行ボタンを押します。

- ±0.3または±0.5のいずれかを選びます。±0.5だとずらし量が大きく、±0.3だと小さくなります。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- ±0 → －（露出アンダー）側 → ＋（露出オーバー）側、の順に撮影されます。
- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。

- フラッシュ撮影はできません.。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と基準となる露出は、1コマ目で固定されます。（コンティニュアスAF時のピント位置のみ1コマごとに決定）

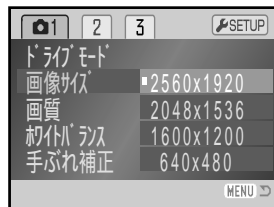
画像サイズ

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2560×1920の場合、画像は横に2560、縦に1920に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセル、ドットといった単位で表されます。
画像をプリントする場合は、サイズが大きいほどきれいにプリントできますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる枚数は少なくなります。このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

画像サイズ	液晶モニター ファインダー	説明
2560×1920	2560	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする（※1）場合におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 （※1）A5（210㎜×148㎜）～A3（420㎜×297㎜）程度
2048×1536	2048	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする（※2）場合におすすめします。約315万画素の画像が撮影できます。 （※2）2L版（178㎜×127㎜）～A4（297㎜×210㎜）程度
1600×1200	1600	枚数を多く撮ってプリントする（※3）場合に便利です。約190万画素の画像が撮影できます。 （※3）L版（127㎜×89㎜）～A5（210㎜×148㎜）程度
640×480	640	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpiの場合を指しています。
※画像サイズを変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.59

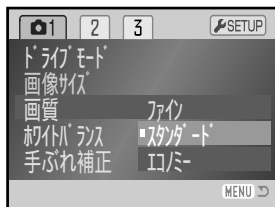
P.50の要領で、希望の画像サイズを選びます。

MENU → 📷1 → 画像サイズ → 右へ → 希望のサイズ → ●実行 → MENU

画質

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
このカメラでは、画質を以下の3つの中から選ぶことができます。表中、上に行くほど高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなるので、カードに記録できる枚数は少なくなります。

画質	液晶モニター ファインダー	ファイル形式	説明
ファイン	FINE	JPEG（圧縮率小）	画像がJPEG（ジェイペグ）型式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG型式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質が劣化します。いったん劣化した画質をパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質の設定は慎重に行なってください。一般的な目安は以下の通りです。 プリントする場合　→ファイン、スタンダード 画像を加工する場合　→ファイン Eメールに添付する場合など　→エコノミー
スタンダード	STD.	JPEG（圧縮率中）	
エコノミー	ECON.	JPEG（圧縮率大）	

P.50の要領で、希望の画質を選びます。

MENU → 📷1 → 画質 → 右へ → 希望の画質 → ●実行 → MENU

ファイルサイズと撮影画像数

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

ファイルサイズ

	2560x1920	2048x1536	1600x1200	640x480
エコノミー	約750KB	約530KB	約380KB	約100KB
スタンダード	約1360KB	約920KB	約680KB	約140KB
ファイン	約2590KB	約1710KB	約1100KB	約210KB

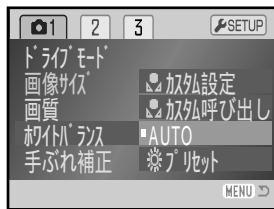
動画	640x480 FINE	640x480 STD.	320x240 STD.
動画（15fps）	約750KB/秒	約500KB/秒	約230KB/秒
動画（30fps）	約1500KB/秒	約1000KB/秒	約450KB/秒

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	2560x1920	2048x1536	1600x1200	640x480
エコノミー	約18コマ	約26コマ	約37コマ	約142コマ
スタンダード	約9コマ	約15コマ	約22コマ	約101コマ
ファイン	約4コマ	約7コマ	約12コマ	約67コマ

動画	640x480 FINE	640x480 STD.	320x240 STD.
動画（15fps）	約18秒	約28秒	約57秒
動画（30fps）	約9秒	約14秒	約29秒

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、光源を選択したり（プリセット）、ご自分で最適な値をカメラに記憶させたり（カスタム）することもできます。

オート（AUTO）

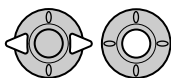
ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオート（AUTO）です。

● オートの場合、液晶モニターやファインダーには表示は現れません。（ヒストグラム表示にはWB AUTOと表されます。）

プリセット

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートで思うような色が出ないときにお使いください。

1. P.50の要領でプリセットを選びます。

MENU → 1 → ホワイトバランス → 右へ → プリセット → ●実行

2. 十字キーの左右で希望の光源を選び、中央の実行ボタンを押します。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- フラッシュ光

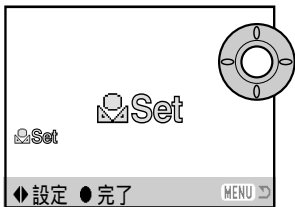
● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタム

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

カスタム値を設定する

1. P.50の要領でカスタム設定を選びます。

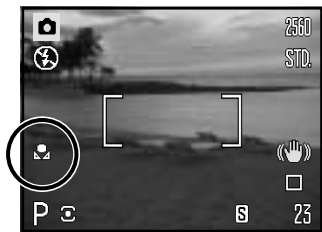
MENU → 📷1 → ホワイトバランス → 右へ → カスタム設定 → ●実行

2. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- ピントを合わせる必要はありません。
- シャッター音がしますが撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後は、カスタムホワイトバランスでの撮影になります。

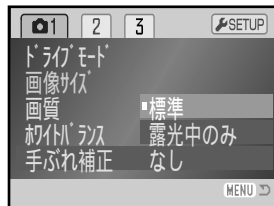
- この操作で設定されたカスタム値は、次に同じ操作で別の値が設定されるまで有効です（カメラの電源を切ってもキャンセルされません）。

設定したカスタム値を呼び出す

P.50の要領でカスタム呼び出しを選びます。

MENU → 📷1 → ホワイトバランス → 右へ → カスタム呼び出し → ●実行 → MENU

手ぶれ補正機能

手ぶれ補正の設定を変更することができます。

標準	シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。
露光中のみ	露光中のみ手ぶれ補正機能が作動します。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合にお使いください。
なし	手ぶれ補正機能は作動しません。

撮影モードダイヤルがAUTOまたはシーンセレクター位置の場合

MENU → 手ぶれ補正 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

撮影モードダイヤルがP/A/S/M位置の場合

MENU → 1 → 手ぶれ補正 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

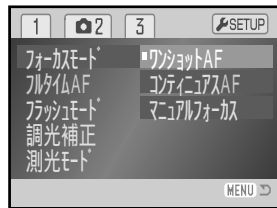
手ぶれ関連表示

	手ぶれ補正表示	手ぶれ補正機能が作動中です。
	ぶれ警告表示	手ぶれの可能性があります。しっかりカメラを構えるか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。暗い時や望遠での撮影時は、手ぶれ補正が作動中でも表示されることがあります。

- 手ぶれ補正の効果を出すためには、まずシャッターボタンを1秒間程度半押しして、画像が安定するのを確認してから、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。
- 三脚使用時には、手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。
- カメラを構えた直後や被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。
- 画面右側に温度計マーク が現れた時は、高温下の長時間撮影によりカメラの温度が上がったため、[標準] での撮影はできません。動画撮影の場合は、手ぶれ補正機能は使用できません。
- 電池容量表示 や手ぶれ補正表示 が赤くなった時は、手ぶれ補正機能は作動しません。撮影はできます。

フォーカスモード

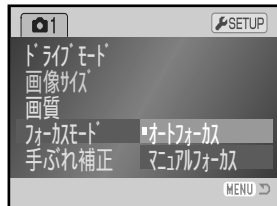
自動でピントを合わせるオートフォーカスか、手動によるピント合わせのマニュアルフォーカスかを選ぶことができます。
撮影モードダイヤルが、P、A、S、M位置のときには、オートフォーカスでのピントの合わせ方として、ワンショットAF*とコンティニュアスAF*を選択できます。

*AF = Autofocus（オートフォーカス）の略

P.50の要領で、希望のフォーカスモードを選びます。

MENU → 2 → フォーカスモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

シーンセレクター位置でのフォーカスモード

撮影モードダイヤルがシーンセレクター位置のときは、ワンショットAFとコンティニュアスAFは別々に選べず、まとめてオートフォーカスとなります。オートフォーカスを選択すると、スポーツモード選択時はコンティニュアスAFに、それ以外は自動的にワンショットAFになります。

MENU → フォーカスモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

オートフォーカス

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

ワンショットAF

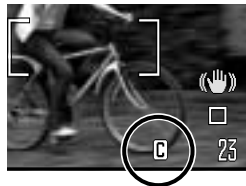
シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。画面上ではS*の文字で表されます。

*S = Single-shot AFの略

コンティニュアスAF

シャッターボタンを半押ししている間、画面中央部の被写体にピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。画面上ではC*の文字で表されます。

*C = Continuous AFの略

- シャッターボタンを半押しすると、[　]（ワイドフォーカスフレーム）がそのまま赤くなります。
- 激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。

フォーカス表示

コンティニュアスAFにすると、液晶モニター／ファインダー内のフォーカス表示が変わります。シャッターボタンを半押しすると表示されます。

ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

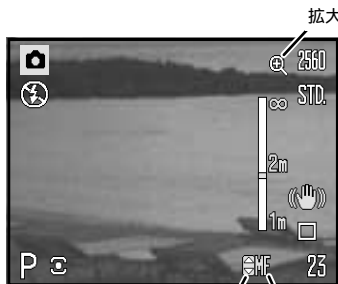
マニュアルフォーカス（MF）

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. P.50の要領で、マニュアルフォーカスを選びます。

MENU → 📷2 → フォーカスモード → 右へ → マニュアルフォーカス → ●実行 → MENU

拡大中、の意味

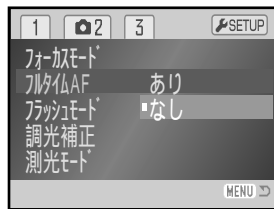
十字キー上下で設定、の意味　MF＝Manual Focus（マニュアルフォーカス）の略

2. 十字キーの上下でピントを合わせます。

- 十字キーの上下いずれかを1回押すと、画像が約2.5倍に拡大され、ピントの状況を見やすくします。約4秒間操作しないでいると、拡大表示は解除されます。
- デジタルズーム時は、デジタルズームの倍率と合わせて2.5倍になります。
- 距離表示は目安です。画面上に写したいものが最もはっきりと見えるように、十字キーの上下で調整してください。

- 露出モードA、S、Mモード時は、十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、十字キー上下の機能が「マニュアルフォーカスのピント合わせ」と「シャッター速度または絞り値設定」とで切り替わります。

フルタイムAF

フルタイムAFをありにすると、シャッターボタンを半押ししなくても、画面中央部の被写体に常にピントが合い続けます。初期設定はフルタイムAFなしです。

- AUTO・シーンセレクターでのマクロ・スーパーマクロ時と、シーンセレクターのスポーツでは、ここでの設定にかかわらず、常にフルタイムAFありになります。

P.50の要領で、フルタイムAFのあり／なしを選びます。

MENU → 2 → フルタイムAF → 右へ → あり／なし → ●実行 → MENU

フルタイムAF あり

シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。フルタイムAFなしの場合と比べて、より速いピント合わせが可能です。

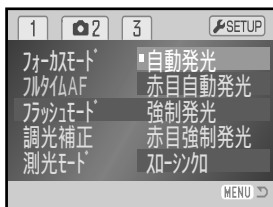
- フルタイムAF なしと比べて、電池の寿命が短くなります。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、フルタイムAFありに設定していてもフルタイムAFは機能しません。

フルタイムAF なし

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。電池を節約したいときや、静かに撮影したい場合に便利です。

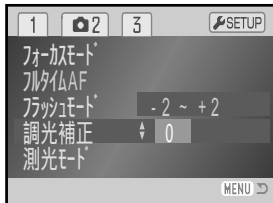
フラッシュモード

フラッシュモードは通常はフラッシュモードボタンで設定しますが、撮影モードメニューで設定することもできます。キーカスタマイズ（P.72）でフラッシュモードボタンに他の機能を割り当てているときは、フラッシュモードの設定にこのメニューをお使いください。

※フラッシュモードについて →P.42

P.50の要領で、希望のフラッシュモードを選びます。

MENU → 📷2 → フラッシュモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

調光補正

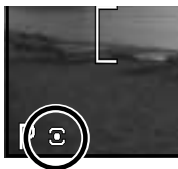
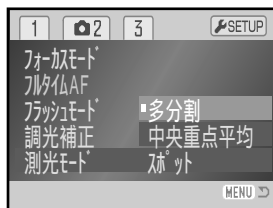
フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0～＋2.0の範囲で1/3段ごとに選択することができます。

P.50の要領で、希望の調光補正値を選びます。

MENU → 📷2 → 調光補正 → 右へ → 希望の値 → ●実行 → MENU

- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（−側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を、標準的な多分割測光、画面中央に重点を置きながら全体を測る中央重点的平均測光、中央のスポットサークル内のみで測光するスポット測光、の3つから選ぶことができます。

P.50の要領で、希望の測光モードを選びます。

MENU → 2 → 測光モード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

多分割測光

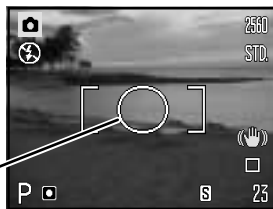
画面全体を細かく分割（256分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

中央重点的平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.44

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

- 測光したい部分が画面中央にないときは、フォーカスロック撮影を行なってください。→P.41

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オート（AUTO）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、ノイズが出る場合があります。

P.50の要領で、希望の撮像感度を選びます。

MENU → 3 → 撮像感度 → 右へ → 希望の値 → ●実行 → MENU

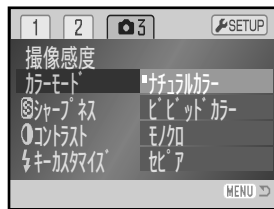
- オート（AUTO）の場合、画面に表示は現れません。撮像感度はISO 50〜160の範囲で自動的に設定されます。Mモード時（P.48）にはISO 100で固定されます。
- 画面右側に温度計マークが現れた時は、高温下の長時間撮影によりカメラの温度が上がったため、高感度側に設定していても自動的にISO 100以下に切り替わることがあります。カメラの温度が下がるのを待ってから撮影してください。

撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は右の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	フラッシュ調光距離（レンズ先端から）	
	ズーム広角側	ズーム望遠側
オート（AUTO）	0.2〜3.6m	1.2〜2.2m
ISO 50	0.2〜2.0m	1.2〜1.3m
ISO 100	0.28〜2.9m	1.2〜1.8m
ISO 200	0.4〜4.0m	1.2〜2.5m
ISO 320	0.50〜5.1m	1.2〜3.2m

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラルカラー、ビビッドカラー、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

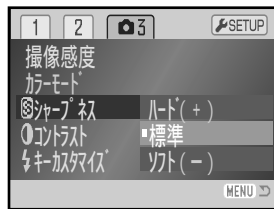
- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまい、階調が表現されないことがあります。
- モノクロ、セピアに設定しても、ファイルサイズはナチュラルカラーと同じです。

P.50の要領で、希望のカラーモードを選びます。

MENU → 3 → カラーモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

表示		
なし	ナチュラルカラー	通常のカラー画像として記録されます。初期設定はナチュラルカラーです。
VIVID	ビビッドカラー	カラー画像ですが、より色が鮮やかに再現されるように、彩度とコントラストが調整されます。
BW	モノクロ	白黒画像として記録されます。
SEPIA	セピア	セピア調の画像として記録されます。

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選べます。

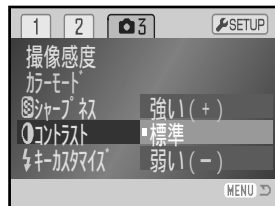
ハード（+）	輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準	標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）	輪郭のやわらかな画像になります。

P.50の要領で、希望のシャープネスを選びます。

MENU → 📷3 → シャープネス → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

- 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。
- JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

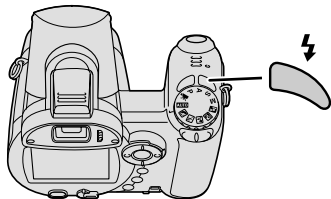
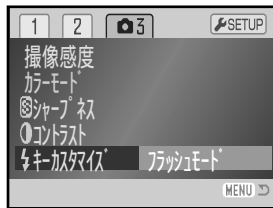
コントラスト

撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。3段階から選べます。

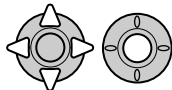
強い（＋）	**コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。**
標準	**標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。**
弱い（－）	**コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。**

P.50の要領で、希望のコントラストを選びます。

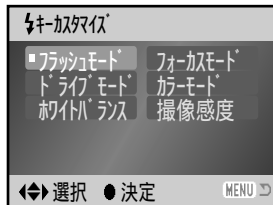
MENU → 📷3 → コントラスト → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

- 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。
- JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

キーカスタマイズ

初期設定では、フラッシュモードボタンを押すとフラッシュモードが変わります。ある特定の機能を頻繁に使用する場合、その機能をフラッシュモードボタンに割り当てると、メニュー画面を出さなくても、すばやく設定ができるようになります。

設定方法

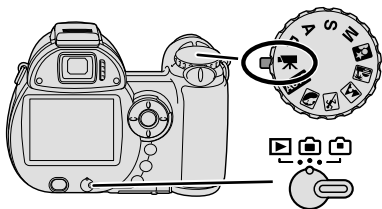
1. P.50の要領で、キーカスタマイズ選択画面を表示させます。

MENU → 3 → キーカスタマイズ → 右へ（現在の設定）→ ●実行

2. 十字キーで希望の機能を選択し、中央の実行ボタンで決定します。

- メニューボタンで元の画面に戻ります。

撮影方法

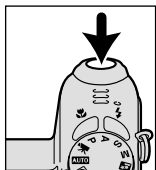
フラッシュモードボタンを押して、希望の設定を選びます。

- ドライブモードを選択した場合、セルフタイマー10秒／2秒を含めてすべてのモードが選べます。
- ホワイトバランスを選択した場合も、プリセット／カスタムを含めてすべてのモードが選べます。カスタム値を設定する場合は、P.61の要領で白く写したいものを画面いっぱいに入れ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。
- フラッシュモード以外を選択した場合、フラッシュモードを選ぶには撮影モードメニューをお使いください。→P.67

動画撮影モード

この章では、動画撮影モードでの各種設定について説明しています。撮影／再生切り替えレバーは、[カメラアイコン]または[カメラアイコン]位置、撮影モードダイヤルは[動画アイコン]位置に合わせてください。

動画撮影モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に[動画アイコン]が現れます。

動画撮影

音声（モノラル）も同時に記録されます。

1. 撮影モードダイヤルを に合わせます。

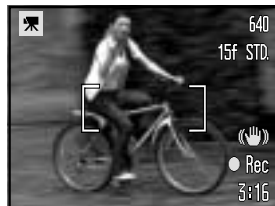
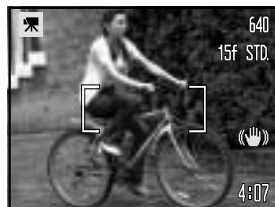
● 画面右下に、撮影可能な残り時間（分：秒）が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は●Recが現れ、残り時間が減っていきます。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り時間が00：00になる（＝カードがいっぱいになる）と、シャッターボタンを押さなくても自動的に撮影が終了します。

※動画のファイルサイズおよび撮影可能時間について → P.59

動画撮影時の設定について

撮影中の操作が可能	**光学ズーム、デジタルズーム**
撮影前に設定可能、撮影中の操作は不可	**液晶モニターとファインダーの切り替え、マクロ撮影、画面表示の切り替え、露出補正、画質、フレームレート、ホワイトバランス、ナイトムービー、手ぶれ補正、フォーカスモード、カラーモード**
動画での設定は固定	**フォーカスエリア（ワイドフォーカスフレーム）、測光モード（多分割）、撮像感度（オート）、ファイル形式（Motion JPEG（MOV））**
動画での設定は不可	**フラッシュ、シーンセレクター、シャープネス、コントラスト、日付写し込み**

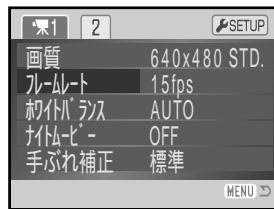
● ピントは画面の中央部分の被写体に合います。また動画撮影中もピント合わせは行われ続けます。

● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、動画撮影はできません。（「電池が少ないので撮影できません」というメッセージが表示されます。）

● カードの性能および撮影条件によっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。データ転送速度の速いSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

動画撮影モードメニュー

撮影モードダイヤルが位置にあるときにメニューボタンを押すと、右の画面が現れて、動画撮影モードメニューの設定ができます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→P.50

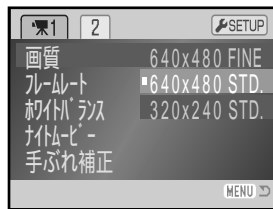
● ここで設定した画質、ホワイトバランス、フォーカスモード、カラーモードは、動画のみに影響し、静止画には影響しません。（カスタムホワイトバランス値と手ぶれ補正は、静止画と動画とで共通です）。

1	
画質（P.76）	640×480 FINE ○640×480 STD. 320×240 STD.
フレームレート（P.76）	30fps ○15fps
ホワイトバランス（P.77）	カスタム設定 カスタム呼び出し ○AUTO プリセット
ナイトムービー（P.77）	ON ○OFF
手ぶれ補正（P.77）	○標準 露光中のみ なし

2	
フォーカスモード（P.78）	○撮影中AFあり 撮影中AFなし マニュアルフォーカス
カラーモード（P.78）	○ナチュラルカラー ビビッドカラー モノクロ セピア

○印は初期設定値です。

画質（動画）

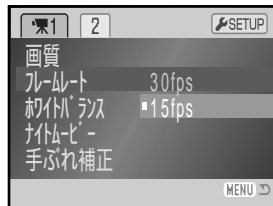
撮影する画像の画質を選ぶことができます。

640×480 FINE	640×480の、より高画質な画像が得られます。
640×480 STD.	640×480のビデオ並みの画像が得られます。
320×240 STD.	320×240の画像が得られます。

P.50の要領で、希望の画質を選びます。

MENU → 1 → 画質 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

フレームレート

初期設定のフレームレート15fps*では、1秒間に15コマの画像が記録されます。30fpsにすると、よりなめらかな動きの画像を得ることができます（ファイルサイズは大きくなります）。

*fps ＝ Frame per second（1秒間当たりのフレーム数）

P.50の要領で、希望のフレームレートを選びます。

MENU → 1 → フレームレート → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

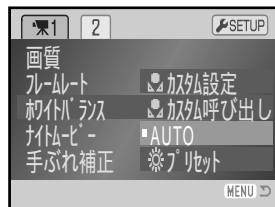
ホワイトバランス（動画）

動画のホワイトバランスを選ぶことができます。

● プリセットの選び方やカスタムホワイトバランスの設定のしかたは、撮影モードメニューのホワイトバランスと同じです。→P.60

1. P.50の要領で、希望のホワイトバランスを選びます。

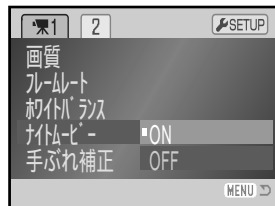
MENU → 1 → ホワイトバランス → 右へ → 希望の設定 → ●実行

2. P.60～61の要領で、希望のホワイトバランスを選びます。

ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーをONにして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

● ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

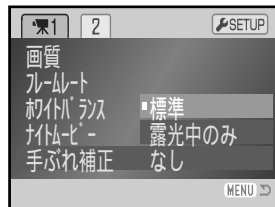
P.50の要領で、ナイトムービー ONを選びます。

MENU → 1 → ナイトムービー → 右へ → ON → ●実行 → MENU

手ぶれ補正（動画）

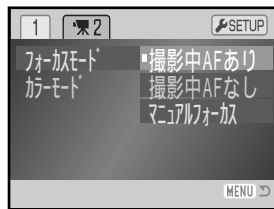
手ぶれ補正の設定を変更することができます。ここでの設定は静止画と共通です。→P.62

標準	シャッターボタン半押し中と動画撮影中、手ぶれ補正機能が作動します。
露光中のみ	動画撮影中のみ手ぶれ補正機能が作動します。
なし	手ぶれ補正機能は作動しません。

P.50の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 1 → 手ぶれ補正 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

フォーカスモード（動画）

動画撮影中のフォーカスモードを選ぶことができます。

撮影中AFあり	動画撮影中も常にオートフォーカスが作動し、ピントを合わせ続けます。初期設定は撮影中AFありです。
撮影中AFなし	ピントは動画撮影開始時の位置で固定されます。撮影中はオートフォーカスは働きません。花火などピントが合いにくい被写体の撮影におすすめします。
マニュアル フォーカス	動画撮影開始前のピント合わせを手動で行うことができます。撮影中のピントはその位置で固定されます。

P.50の要領で、希望のフォーカスモードを選びます。

MENU → 2 → フォーカスモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

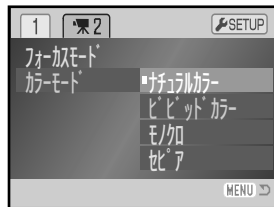
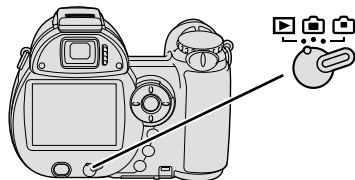
- 撮影中AFありを選ぶと、オートフォーカスの動作音が録音される場合があります。気になる場合は、撮影中AFなしにしてください。
- マニュアルフォーカスの操作方法は、静止画と同じです。→P.65

カラーモード（動画）

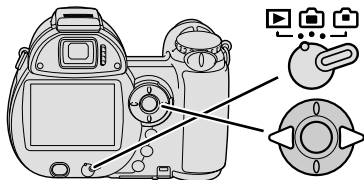
撮影する動画の色を、ナチュラルカラー、ビビッドカラー、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

- 各カラーの詳細については、静止画と同じです。→P.70

P.50の要領で、希望のカラーモードを選びます。

MENU → 2 → カラーモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

再生モード

この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。撮影／再生切り替えレバーは、▶位置に合わせてください。

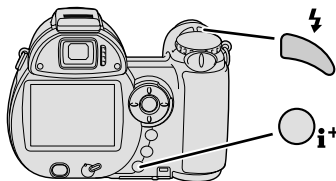
再生モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に▶が現れます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

古い画像 ←→ **新しい画像**

- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（P.36）でも再生モードと同じ操作が可能です（再生モードメニューの操作を除く）。

再生場所の切り替え

フラッシュモードボタン

表示切り替えボタン

再生画像は、初期設定では液晶モニターに表示されます。フラッシュモードボタンを押したまま、表示切り替えボタンを約1秒以上押し続けると、再生場所が液晶モニターとファインダーとで切り替わります。

画面表示の切り替え（▶再生モード時）

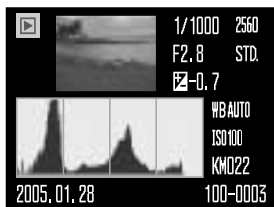
再生モードおよびクイックビュー時には、表示切り替えボタンと十字キーにより、以下の通り画面の切り替えができます。

※個々の表示内容について →P.14

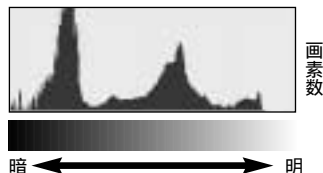
インデックス再生

6コマ分を一度に液晶モニターに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

● 動画の場合は、動画撮影開始時の画像が表示されます。

ヒストグラム（輝度分布）表示

1コマ再生時に十字キーの上を押すと、画像のヒストグラム（P.83）と撮影データが表示されます。

● 十字キーの下を押すと、1コマ再生に戻ります。

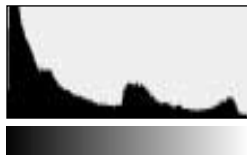
● 十字キーの左右を押すとコマを選択することができます。

● 動画のヒストグラム表示はできません。

縦再生

1コマ再生時に十字キーの下を押すと、画像が回転します。カメラ縦位置で撮った画像を見るときに便利です。

● 動画（動画撮影開始時の画像）は回転できません。

● パソコンに取り込んだ画像は、使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。付属のDiMAGE Viewerでは、正しく回転された状態で表示されます。
● SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが書き込み禁止位置になっているとき（P.20）は、画像の回転はできません。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

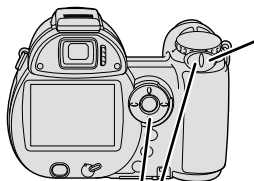
※画素について →P.57

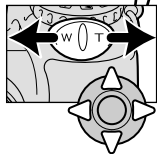
＋側に露出補正をかける

＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。−側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。撮影前にヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。
*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

拡大再生

再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大することができます。

1. 再生モード位置またはクイックビュー中に、ズームレバーを右（T側）に1回動かします。

- 画像が1.2倍に拡大されます。
- 動画は拡大再生できません。

2. ズームレバーで拡大倍率を変更し、十字キーで表示場所を移動させます。

- 0.2倍ごとに拡大・縮小されます。レバーを押し続けると連続して拡大できます。画像サイズによって拡大倍率は変わります（右表参照）。
- 連続拡大の終端（2560×1920の場合だと4.0倍）でさらにT側にズームレバーを動かすと、最大倍率が得られます。
- 表示切り替えボタン を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

画像サイズ	拡大倍率範囲	
	連続拡大倍率	最大倍率
2560×1920	1.2〜4.0倍	8.0倍
2048×1536	1.2〜3.2倍	6.4倍
1600×1200	1.2〜2.4倍	5.0倍
1024×768*	1.2〜1.6倍	3.2倍
640×480	—	2.0倍

*1024×768は、
UHS連続撮影とシャッターチャンス連写時のみ可能

3. メニューボタンまたは十字キー中央の実行ボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

動画再生

撮影した動画を再生します。

1. 十字キーの左右で、動画が撮影されたコマを選びます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

- 右上の数値は経過時間です。
- 表示切り替えボタン ◯i+ を押すと、再生中の画面内の表示を消すことができます。

動画再生中の十字キー操作

- 最後まで再生すると、自動的に動画再生開始前の状態に戻ります。途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

動画から静止画を切り出す（セレクトショット）

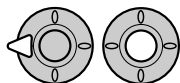
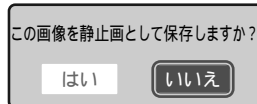
撮影済みの動画からお気に入りの画面（シーン）を静止画として切り出して保存できます。

セレクトショット

1. 動画再生中、静止画として保存したいところで十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 一時停止状態になります。十字キーの左右で、前後の微調整ができます。

2. 十字キーの上を押します。

● 右図のメッセージが現れます。

3. 十字キーの左で［はい］を選び、中央の実行ボタンを押します。

4.「保存しました」のメッセージが出たら、再度実行ボタンを押します。

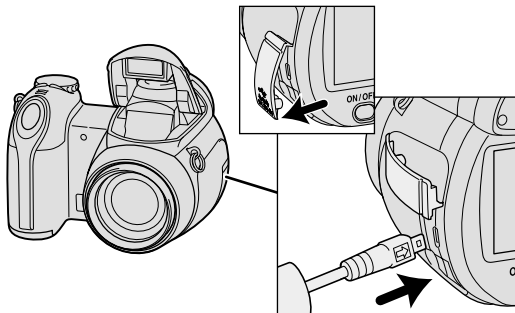
● 続けて次の静止画を切り出すこともできます。

● 保存された静止画の画像サイズは、再生していた動画の画像サイズと同じです。画質はエコノミー相当になりますが、静止画と動画の画質は一致しませんので、切り出された静止画像には画質の情報は記録されていません。

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-700でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビ等に映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

2. AVケーブルの黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

3. カメラ側面の端子カバーを開け、AVケーブルのもう一方の側をAV出力端子に差し込みます。

● コネクタの矢印をカメラの背面側に向け、わずかに上向きにしてまっすぐ奥まで差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因になります。

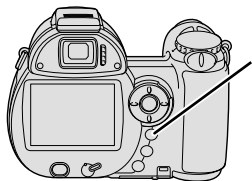
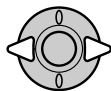
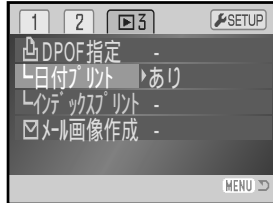
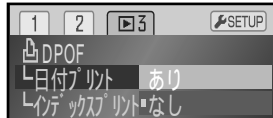
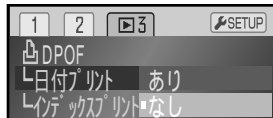
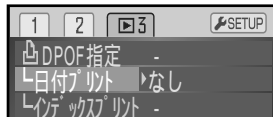
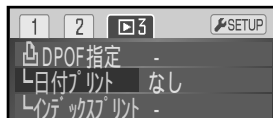
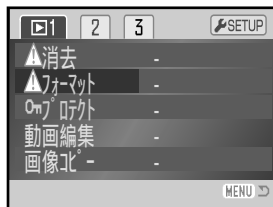
4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラの電源を入れ、撮影／再生切り替えレバーを ▶ 位置（再生モード）に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様の操作ができます。

● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.118

再生モードメニュー

再生モード▶でメニューボタンを押すと、右の画面が現れて、再生モードメニューの設定ができます。

1. メニューボタンを押した後、十字キーの左右で、設定したい項目のあるタブ（▶1～▶3）を選びます。

2. 十字キーの上下で希望の項目を選びます。

3. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

4.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

6. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

▶1	
消去(P.90)	このコマ 全コマ コマを指定
フォーマット(P.91)	実行する
プロテクト(P.92)	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
動画編集(P.94)	実行する
画像コピー(P.96)	このコマ コマを指定

▶2	
スライドショー(P.98)	実行する
スライドショー 再生画像(P.98)	○全コマ コマを指定
スライドショー 間隔(P.98)	1〜60秒 ○5秒
スライドショー 繰り返し(P.98)	あり ○なし

▶3	
DPOF指定(P.100)	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
日付プリント(P.103)	あり ○なし
インデックスプリント (P.103)	作成する ○作成しない
メール画像作成(P.104)	このコマ コマを指定

○印は初期設定値です。

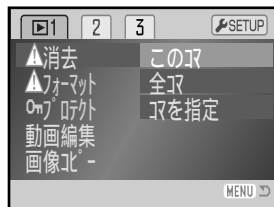
● SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが書き込み禁止位置になっているとき(P.20)は、設定できない項目があります。

画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

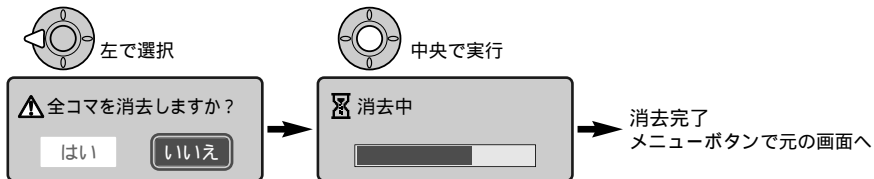
このコマ（1コマ消去）： 再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去： フォルダ内の画像すべてを消去します。
コマを指定： 指定した画像だけを消去します。

※1コマずつ手早く消去するには →P.36

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. P.88の要領で希望の設定を選びます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

3. 確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

- 「プロテクトされています」のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.92
- 全コマ消去の場合、左のメッセージは現れませんが、プロテクト（誤消去防止）された画像は消去されずに残ります。

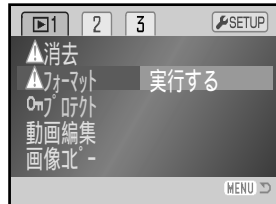
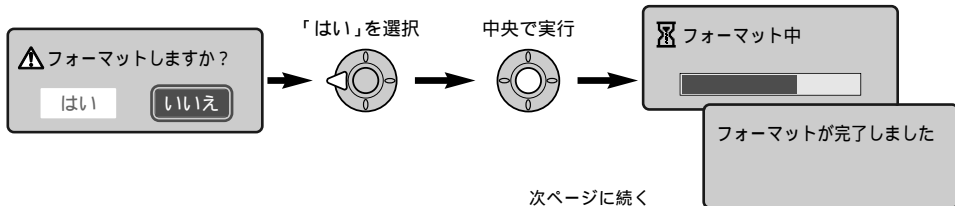
プロテクトされています

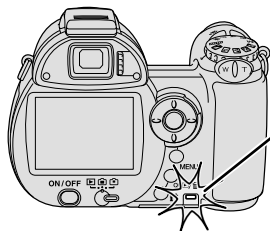
カードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。復活させることはできません。

1. フォーマットするカードをカメラに入れ、P.88の要領でフォーマットを選びます。

MENU → ▶1 → フォーマット → 実行する → ●実行

2. 十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

次ページに続く

カードのフォーマット（続き）

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。
点灯中はカードを抜かないでください。

アクセスランプ

● カードのフォーマットは、前ページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識できないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影前にカメラで再フォーマットしてください。

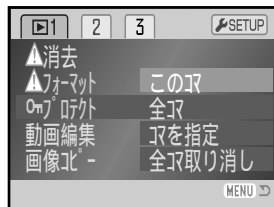
プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）： **再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。**

全コマプロテクト： **フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。**

コマを指定： **指定した画像だけにプロテクトをかけます。プロテクトを取り消す場合にも使用します。**

全コマプロテクト取り消し： **フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。**

1. P.88の要領で希望の設定を選びます。

プロテクトのかかった画像

2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

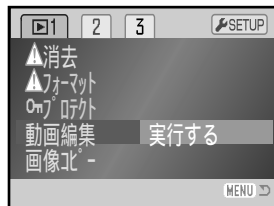
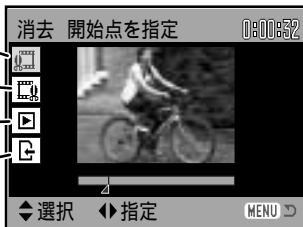
プロテクト
フォーマット

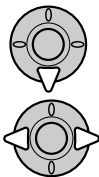
動画編集（撮影済みの動画の一部を消去する）

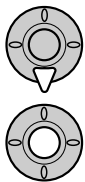
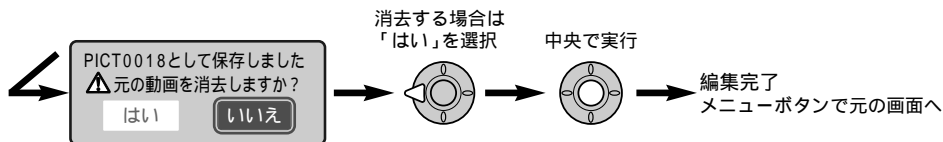
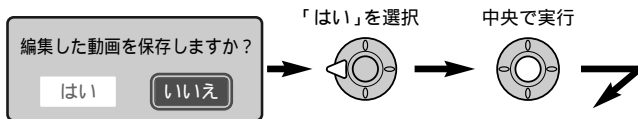
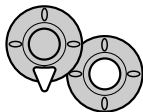
撮影済みの動画の一部を消去することができます。元の動画は、残すことも消去することもできます。

1. 十字キーの左右で、動画が撮影されたコマを選びます。

2. P.88の要領で動画編集画面を表示させます。

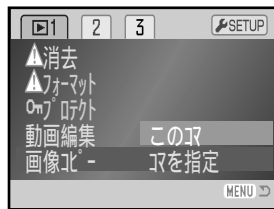
MENU → ▶1 → 動画編集 → 実行する → ●実行

3. 消去開始点マークを選んだ状態で、十字キー左右で消去の開始点を指定します。

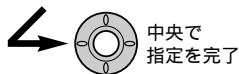
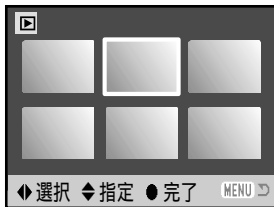
4. 十字キー下側で消去終了点マークを選び、十字キー左右で消去の終了点を指定します。

5. 必要ならば十字キー下側で再生マークを選び、中央の実行ボタンを押すと、編集（消去）後の動画が再生されます。

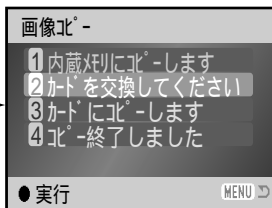
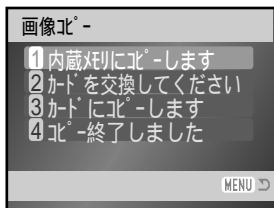
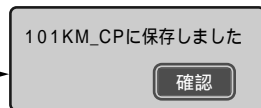
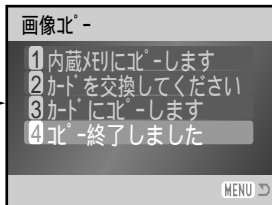
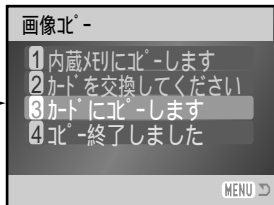
● 再生して気に入らなければ、再度、消去開始点マーク／終了点マークを選んでやり直すことができます。

6. 十字キー下側で保存マークを選び、中央の実行ボタンを押すと、編集（消去）後の動画が保存されます。

● 一度に2ケ所以上の消去を行なうことはできません。2ケ所以上消去する場合は、上記の操作を1つずつ繰り返してください。

● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、動画編集を行なうことはできません。

画像のコピー

あるカードに記録された画像を、別のカードにコピーすることができます。
このコマ（1コマコピー）：再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　　　　　　指定した画像だけをコピーします。

1. コピーする画像が入ったカードをカメラに入れ、P.88の要領で希望の設定を選びます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

3. 画面の指示に従ってコピーを続けます。

中央を押す

メニューボタンで元の画面へ

- コピーすると、再生時には、コピーされた画像が最新画像として表示されます。
- プロテクトされた画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。
- 「画像が多すぎます。指定し直してください。」のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリには約24MBコピーできます。）
- 「サイズが大きすぎます」のメッセージが現れた場合は、動画などファイルサイズの大きな画像を指定したため、内蔵メモリにコピーできません。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続し、パソコン経由でコピーしてください。→P.121～

スライドショー（画像の自動再生）

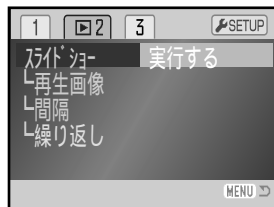
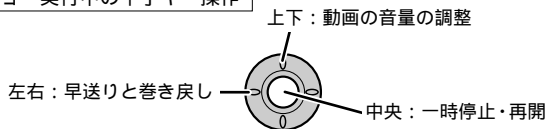
カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1 ▶2 3 SETUP
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ 実行する
└再生画像
└間隔
└繰り返し
MENU

1. P.88の要領で、スライドショーを実行します。

MENU → ▶2 → スライドショー → 実行する → ●実行

スライドショー実行中の十字キー操作

上下：動画の音量の調整
左右：早送りと巻き戻し
中央：一時停止・再開

2. スライドショーを終えるときは、メニューボタンを押します。

● その後もう一度メニューボタンを押すと、元の再生画面に戻ります。

● 動画もスライドショーで再生されます。
● 表示切り替えボタン で撮影データを消すこともできます。

スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：	**全コマ再生／再生コマを指定**
間隔（画像表示時間）：	**1～60秒**
繰り返し：	**あり／なし**

1. P.88の要領で、希望の項目と設定を選びます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「実行する」でスライドショー再生
→前ページ

DPOF（プリント）指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っている画像のうち、どれを何枚印刷するのかを指定する方法。

デジカメで撮影した画像のプリント方法

①ご自分のプリンタで印刷する

画像をパソコンに取り込んで、そこから印刷する方法です。PictBridge対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで接続してプリントすることができます。→P.140～

②ネットプリントを利用する

インターネットでプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントのほかに、「オンラインアルバム」「オンラインDVDサービス」などさまざまなサービスをご用意しております。

③ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する

カードを、ご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

プリントする画像を指定する

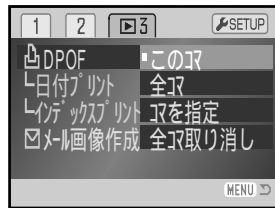
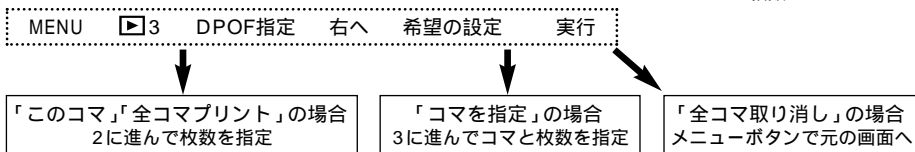
どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の4通りの指定方法があります。

このコマ（1コマプリント）：	**再生中の画像を1コマだけプリントします。**
全コマプリント：	**カード内の画像すべてをプリントします。**
コマを指定：	**指定した画像だけをプリントします。**
全コマ取り消し：	**カード内のすべての画像のプリントを取り消します。**

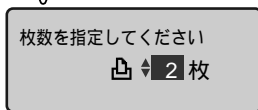
DPOF指定された画像とその枚数

- 動画のDPOF指定はできません。
- 全コマプリント指定後に撮影した画像は、DPOF指定されません。
- 他のデジタルカメラでDPOF指定したカードをこのカメラに入れ、新たに指定を行なうと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

1. P.88の要領で希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマプリント」の場合 2に進んで枚数を指定	「コマを指定」の場合 3に進んでコマと枚数を指定	「全コマ取り消し」の場合 メニューボタンで元の画面へ

2.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

- 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
- 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

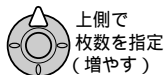
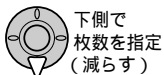
上下で枚数を選択

中央で決定

メニューボタンで元の画面へ

次ページへ続く

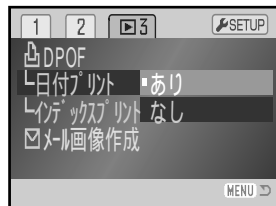
DPOF指定

3.「コマを指定」の場合、十字キーでDPOF指定するコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

日付プリント

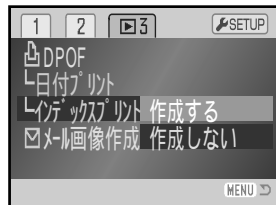
プリントする際に、プリンタ側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）は、お使いのプリンタによって異なります。

- プリントされるのは年月日だけです。時刻は入りません。
- プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。
- 画面内右下への日付写し込み（P.114）とは別の機能です。

P.88の要領で、日付プリント ありを選びます。

MENU → ▶3 → 日付プリント → 右へ → あり → ●実行 → MENU

インデックスプリント

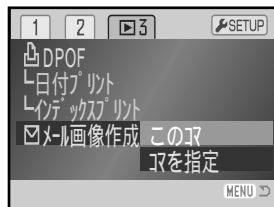
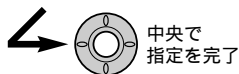
カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントを作成することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント作成後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

P.88の要領で、インデックスプリント 作成するを選びます。

MENU → ▶3 → インデックスプリント → 右へ → 作成する → ●実行 → MENU

メール画像作成

撮影された画像から、Eメール添付に適したメール画像（画像サイズ640×480）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。
このコマ（1コマのみ作成）：再生中の画像を1コマだけメール用に新たに作成します。
コマを指定：　指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

1. P.88の要領で希望の設定を選びます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでメール画像作成するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

3. メール画像作成が完了すると、以下の確認画面が現れます。

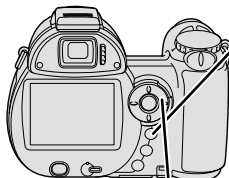
保存先のフォルダ名が表示されます。

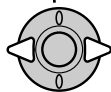
メール画像として作成された画像

- 元画像の画質がファインの場合、作成されたメール画像の画質はスタンダードになります。元画像がスタンダードまたはエコノミーの場合は、そのまま変わりません。
- 動画から直接メール画像を作成することはできません。動画をいったん静止画として切り出してから（セレクトショット、P.86）、メール画像を作成することはできます。320×240の静止画の画像サイズは変わりません。
- プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトはかかっていません。
- 「画像が多すぎます。指定し直してください。」のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、カードに保存できません。画像の数を減らして指定し直してください。
- 「作成できません」のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えているか、動画またはすでに作成済みのメール画像です。メール画像は作成できません。

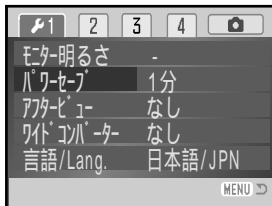
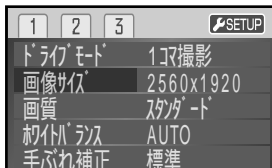
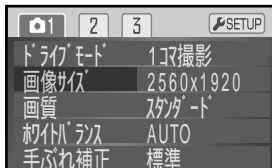
セットアップモード

このカメラ全般に関するさまざまな設定の変更ができます。

セットアップモードへの入り方

1. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。

● 撮影モード、動画撮影モード、再生モードのいずれでも構いません。

2. 十字キーの左右で、画面右上の SETUP を反転させます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● セットアップモード画面が現れます。

セットアップモードメニュー

セットアップモードでは以下の設定が可能です。操作方法は再生モードメニュー（P.88）と同じです。

🔧1	
モニター明るさ（P.108）	実行する
パワーセーブ（P.108）	10分 5分 3分 ○1分
アフタービュー（P.109）	10秒 2秒 ○なし
ワイドコンバーター（P.109）	あり ○なし
言語／Lang.（P.110）	○日本語/JPN English（英語） Deutsch（ドイツ語） Français（フランス語） Español（スペイン語） 中文/CHN Italiano（イタリア語） Svenska(スウェーデン語)

🔧2	
ファイルNo.メモリー（P.112）	あり ○なし
フォルダ形式（P.113）	○標準形式 日付形式
日時設定（P.114）	実行する
日付写し込み（P.114）	あり ○なし

🔧3	
設定値リセット（P.115）	実行する
操作音（P.117）	○音1 音2 なし
AF音（P.117）	○音1 音2 なし
シャッター音（P.117）	○音1 音2 なし
音量（P.117）	3（大きい） ○2 1（小さい） 0（消音）

🔧4	
ビデオ出力（P.118）	○NTSC PAL
USB接続（P.118）	○カードリーダー PictBridge
デジタルズーム（P.119）	あり ○なし
セルフタイマー（P.120）	○10秒 2秒

○印は初期設定値です。

液晶モニターとファインダーの明るさ調整

液晶モニターとファインダーの明るさを、それぞれ調整することができます。

1. 液晶モニターの明るさを調整するときは液晶モニターを、ファインダーの明るさを調整するときはファインダーを点灯させます。

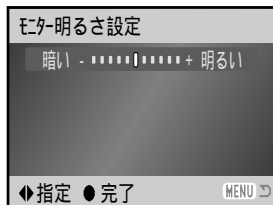
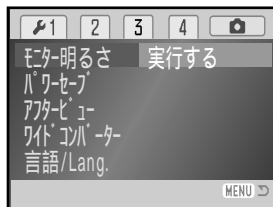
2. P.106, 88の要領で、モニター明るさ設定画面を表示させます。

MENU → SETUP → 1 → モニター明るさ → 実行する → ●実行

3. 十字キーの左右でモニターの明るさを調整します。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 元の画面に戻ります。

● セットアップモードメニューの代わりに、表示切り替えボタンを約2秒間押し続けても、同様に画面の明るさの調整ができます。

パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に省電力設定になります（パワーセーブ、P.19）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

● 液晶モニターは約1分間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

● パワーセーブになると、次に操作したときにカメラが動き始めるまでの時間が少し長くなります。

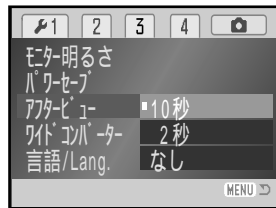
P.106, 88の要領で、希望の時間を選びます。

MENU → SETUP → 1 → パワーセーブ → 右へ → 希望の時間 → ●実行 → MENU

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を2秒間または10秒間、画面に表示させることができます。

P.106, 88の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → SETUP → 1 → アフタービュー → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

アフタービューなし

撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービュー なしです。

- アフタービューをなしにしていても、撮影後シャッターボタンから指を離さずに押し続けていると、その間撮影した画像が液晶モニターに表示され、アフタービューの代わりになります。

アフタービュー2秒／10秒

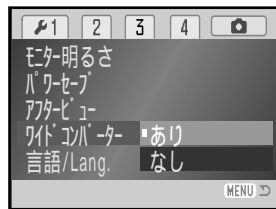
撮影直後の約2秒間または約10秒間、撮影した画像を画面に表示させます。

- 画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
- 連続撮影やブラケット撮影の場合は、インデックス表示（画面に6コマが表示）になります。

ワイドコンバーター

別売りのワイドコンバーターを使用して撮影するときは、この画面でワイドコンバーターありに設定する必要があります。

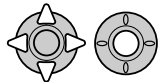
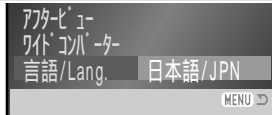
P.106, 88の要領で、ワイドコンバーター ありを選びます。

MENU → SETUP → 1 → ワイドコンバーター → 右へ → あり → ●実行 → MENU

- 詳しくはワイドコンバーターの使用説明書をご覧ください。

言語設定

画面に表示される言語を、8カ国語の中から選ぶことができます。

1. P.106, 88の要領で、言語選択画面を表示させます。

MENU→SETUP→1→言語/Lang.→右へ（現在の言語）→●実行

2. 十字キーで希望の言語を選び、中央の実行ボタンで決定します。

● メニューボタンで元の画面に戻ります。

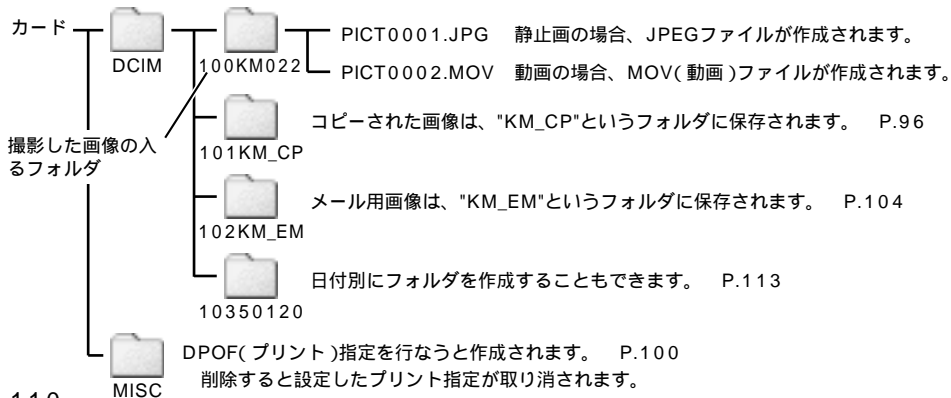
● 選べる言語は以下の通りです。

・日本語
・英語（English）
・中国語（中文）
・ドイツ語（Deutsch）
・フランス語（Français）
・スペイン語（Español）
・イタリア語（Italiano）
・スウェーデン語（Svenska）

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つのファイルが作成され、カード内のフォルダに保存されます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。パソコンで見ることができます。→P.121

● 削除すると設定したプリント指定が取り消されます。

フォルダ名について

例：　100 KM022

フォルダ番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "KM" はコニカミノルタを、"022" はこのカメラ（DiMAGE Z5）を意味します。画像をコピーすると "KM_CP"、メール画像を作成すると"KM_EM" というフォルダが作成されます。日付別にフォルダを自動的に作成することもできます。

- KM022部分は、パソコンに接続するか、再生モードのヒストグラム表示で見ることができます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.121～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.91）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

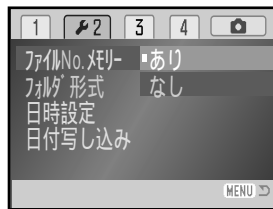
- カメラでフォルダ内の最新画像以外を消去すると、消去した画像のファイル番号は欠番となります。
- フォルダ内の画像をすべて消去したり、フォルダを変更したりすると、ファイル番号は再び0001から始まります。　※続き番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.112
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "104KM022"）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

言語設定　ファイルとフォルダ

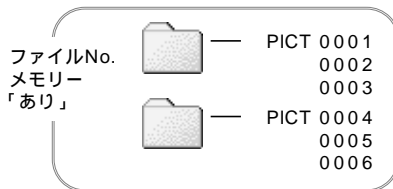
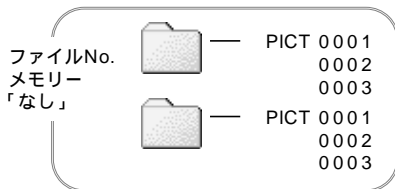
ファイルNo.メモリー

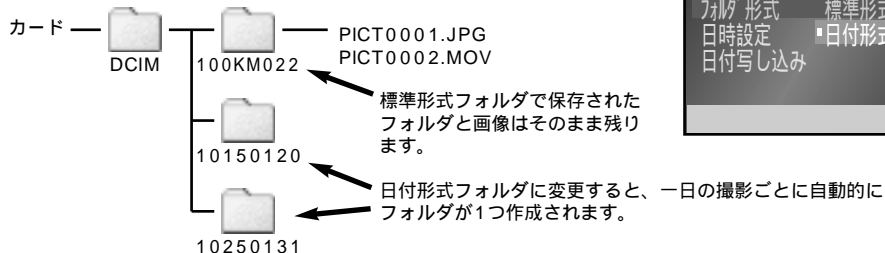
初期設定の「ファイルNo.メモリーなし」では、フォルダが変わるたびにファイル名は“ PICT0001 ”から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：ファイルNo.メモリーは機能しません。画像のコピーやメール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

P.106, 88の要領で、ファイルNo.メモリー あり／なしを選びます。

MENU → SETUP → 2 → ファイルNo.メモリー → 右へ → あり／なし → ●実行 → MENU

イメージ図

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100KM022等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

P.106, 88の要領で、日付形式フォルダを選びます。

フォルダを日付形式にすると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

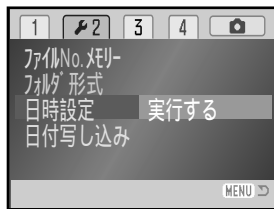
- 撮影すると、その日の日付のフォルダが自動的に作成されます。初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。　※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.112

日時設定

日時や年月日の並び順が修正できます。
- 通常は、撮影のたびに設定する必要はありません。

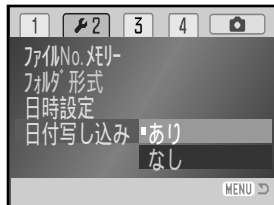
1. P.106, 88の要領で、日時設定画面を表示させます。

MENU → SETUP → 2 → 日時設定 → 実行する → ●実行

2. P.23の2～5の要領で、十字キーで日時と年月日の並び順を設定します。

日付写し込み

撮影の年月日を、画面の右下に入れることができます。一度入れた日付を消すことはできません。初期設定では写し込みはされません。

P.106, 88の要領で、日付写し込み ありを選びます。

MENU → SETUP → 2 → 日付写し込み → 右へ
→ あり → ●実行 → MENU

日付写し込みあり、の意味

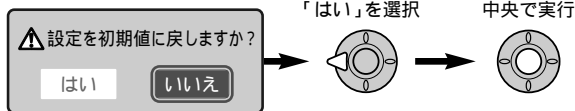
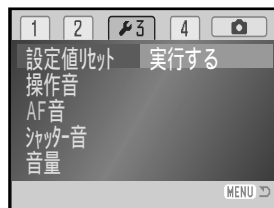
- 日付写し込みなしの場合でも、撮影時の年月日時刻は記録されており、再生時には画面左下に表示されます。
- DPOF指定の日付プリント（P.103）とは別の機能です。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1. P.106, 88の要領で、設定値のリセットを選びます。

MENU → SETUP → 3 → 設定値リセット → 実行する → ●実行

2. 十字キーで、設定値のリセットを行ないます。

設定値リセット一覧表

ボタンや十字キーで設定するもの

項目	設定	ページ
フラッシュモード	自動発光または強制発光	29 42 67
マクロ・スーパーマクロ	なし	33
フォーカスフレーム	ワイド	40
画面表示	撮影情報あり	43 81
露出補正	±0	44
絞り値	F5.6	46
シャッター速度	1/250秒	47
再生場所	液晶モニター	80

撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	52
画像サイズ	2560×1920	57
画質	スタンダード	58
オートシーンセレクター	ON	30
ホワイトバランス	AUTO（オート）	60
手ぶれ補正	標準	62
フォーカスモード	オートフォーカスまたはワンショットAF	63
フルタイムAF	なし	66
調光補正	±0	67
測光モード	多分割	68
撮像感度	AUTO（オート）	69
カラーモード	ナチュラルカラー	70
シャープネス	標準	70
コントラスト	標準	71
キーカスタマイズ	フラッシュモード	72

次ページに続く

動画撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画質	640×480 STD.	76
フレームレート	15fps	76
ホワイトバランス	AUTO（オート）	77
ナイトムービー	OFF	77
手ぶれ補正	標準	77
フォーカスモード	撮影中AFあり	78
カラーモード	ナチュラルカラー	78

再生モードメニュー

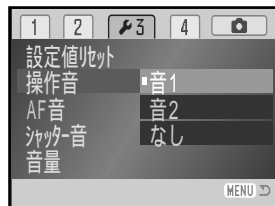
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
スライドショー再生画像	全コマ	98
スライドショー間隔	5秒	98
スライドショー繰り返し	なし	98

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	108
パワーセーブ	1分	108
アフタービュー	なし	109
ワイドコンバーター	なし	109
ファイルNo.メモリー	なし	112
フォルダ形式	標準形式	113
日付写し込み	なし	114
操作音	音1	117
AF音	音1	117
シャッター音	音1	117
音量	2	117
USB接続	カードリーダー	118
デジタルズーム	なし	119
セルフタイマー	10秒	120

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。

P.106, 88の要領で、希望の項目と設定を選びます。

MENU→🔧SETUP→🔧3→操作音→右へ→希望の設定→●実行→MENU

MENU→🔧SETUP→🔧3→AF音→右へ→希望の設定→●実行→MENU

MENU→🔧SETUP→🔧3→シャッター音→右へ→希望の設定→●実行→MENU

MENU→🔧SETUP→🔧3→音量→右へ→希望の設定→●実行→MENU

項目	説明	設定
操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等カメラの操作時に出る音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（機械音をベースにした音）
		なし（音は出ません）

項目	説明	設定
AF音	AF（オートフォーカス）でピントが合った時に出るピント確認音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（ミノルタα-9のAF音）
		なし（音は出ません）

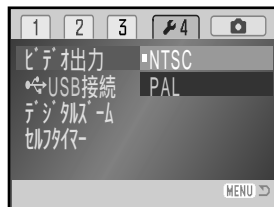
項目	説明	設定
シャッター音	シャッターを切った時に出る音	音1　（ミノルタα-9のシャッター音）
		音2　（ミノルタCLEのシャッター音）
		なし（音は出ません）

項目	設定
音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）
	0（消音）

● 音量は、操作音、AF音、シャッター音のすべてに反映されます。

ミノルタCLE

ビデオ出力方式の切り替え

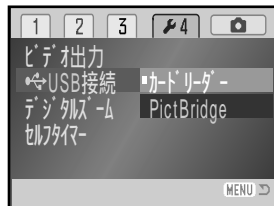
テレビのビデオ信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々ではPAL方式が採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

P.106, 88の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → SETUP → 4 → ビデオ出力 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

USB接続

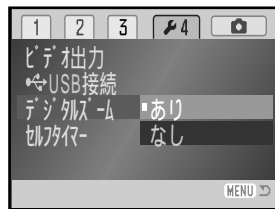
カメラをUSBケーブルでパソコン等に接続する際の、接続の種類を選びます。

カードリーダー： 撮影した画像をパソコンに取り込むときに使用します。初期設定はカードリーダーです。→P.121～

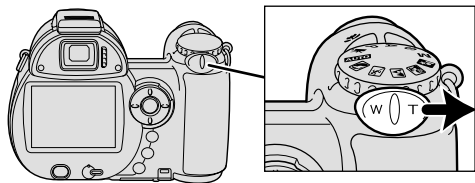
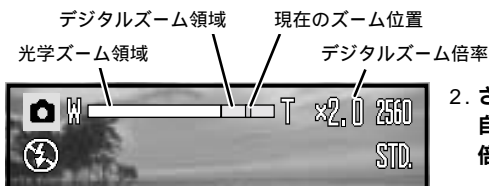
PictBridge： PictBridge対応プリンタと接続して、撮影した画像を印刷するときに使用します。→P.140～

P.106, 88の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → SETUP → 4 → USB接続 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

デジタルズーム

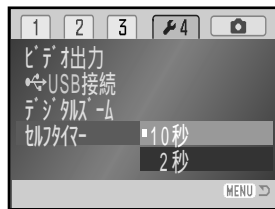
通常のズーム（光学ズーム）に加えて、さらに画像を最大4倍にまで拡大することができます。

P.106, 88の要領で、デジタルズーム ありを選びます。

MENU → SETUP → 4 → デジタルズーム → 右へ → あり → ●実行 → MENU

撮影方法

1. 上記の手順でデジタルズーム ありを選び、ズームレバーを右（T側）に動かして、最も望遠側にズームさせます。

2. さらにズームレバーを右（T側）に動かし続けると、自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

セルフタイマーの時間変更

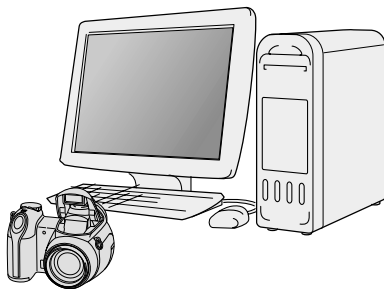
セルフタイマー（P.52）での撮影の際、初期設定では、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。この10秒を2秒に変更することもできます。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

P.106, 88の要領で、セルフタイマー 10秒／2秒を選びます。

MENU → SETUP → 4 → セルフタイマー → 右へ → 10秒／2秒 → ●実行 → MENU

- 2秒セルフタイマーの撮影方法は10秒セルフタイマーと同じです。ただし、撮影後もセルフタイマーは解除されません。

パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

- セットアップモードメニュー🔧4のUSB接続が、初期設定の「カードリーダー」になっていることが前提です。→P.118

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。接続には付属のUSBケーブル USB-2をお使いください。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home／Professional）、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98／98 Second Editionがインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～10.1.5、10.2.1～10.2.8、10.3～10.3.6がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から「互換性情報」をご覧いただくか、弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

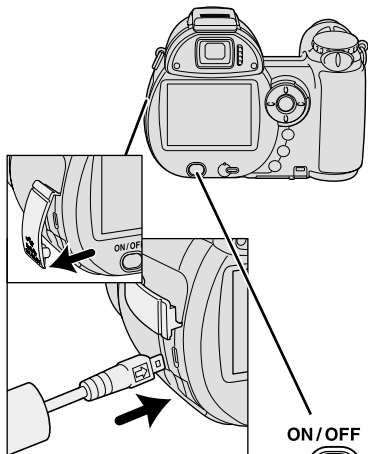
お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.123～

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.131～
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.123～

パソコンへ接続する（USB接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

3. カメラ側面の端子カバーを開け、USBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- コネクタの矢印をカメラの背面側に向け、わずかに上向きにしてまっすぐ奥まで差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因になります。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま接続することができますが、取り外す際にはP.128の指示にしたがってください。

4. カメラのメインスイッチを押して電源を入れます。

- 撮影／再生切り替えレバーはどの位置でも構いません。

- USB接続中は、液晶モニターに が現れます。

- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると、自動的にカメラの電源が切れます（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は、自動的に電源が切れることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→P.128
- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.131へ、すでにしている場合はP.132へ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルを含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプターAC-11の使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
- カードのフォーマットはカメラ側で行なってください（P.91）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カードが使えなくなることがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

WindowsXPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。また、セットアップモードメニュー🔧4のUSB接続が、初期設定の [カードリーダー] になっているかどうかも確認してください（P.118）。

2. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

● リムーバブルディスクのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
● [DCIM] 以外のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

3. [100KM022] のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は [100KM022] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。

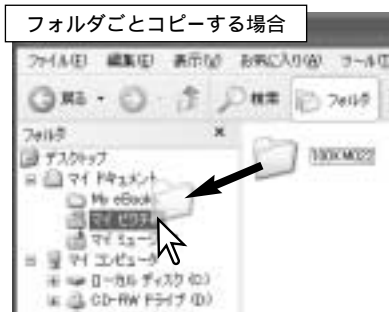
※フォルダの詳細は →P.110

● フォルダを開けると、[PICT0001] [PICT0002.JPG] 等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

4. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

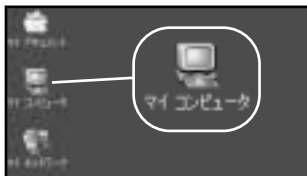
クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

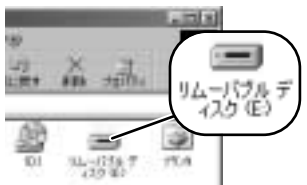
フォルダごとコピーする場合

[100KM022] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1. デスクトップ上の［マイ コンピュータ］をダブルクリックして開きます。

- カメラ内のカードが、［リムーバブルディスク］として現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。
  ※それでも［リムーバブルディスク］が現れない場合は →P.131〜134

2. ［リムーバブルディスク］をダブルクリックして開きます。

- ［DCIM］フォルダが現れます。

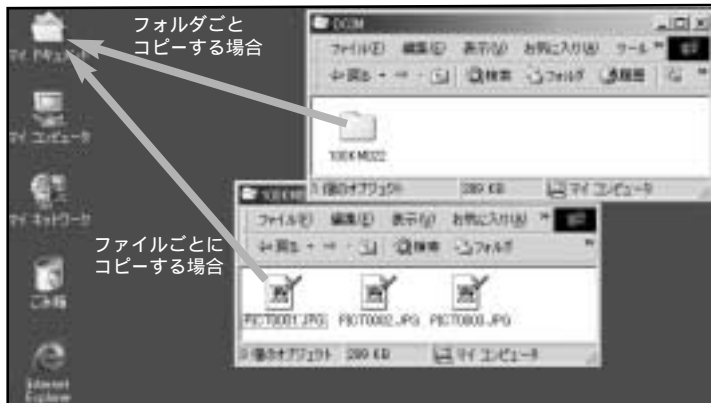
3. ［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

- その他のフォルダ（［MISC］等）は削除しないでください。

4. ［100KM022］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は［100KM022］です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。
  ※フォルダの詳細は →P.110
- フォルダを開けると、［PICT0001］［PICT0002.JPG］等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

[100KM022]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント] に
コピーする例

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
● [マイ ドキュメント] 以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、[NO_NAME] [名称未設定] などの名前で現れます。(それ以外の名前になることもあります。)

● 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

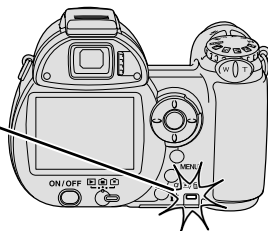
2. 前ページの3〜5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

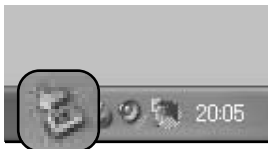
● [マイ ドキュメント] の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

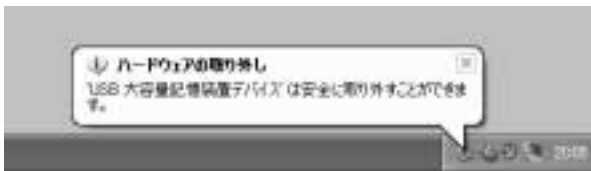
接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

5. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。

3. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

このカメラで撮影した静止画はすべてJPEG（ジェイペグ）画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影された画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.137

● DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。

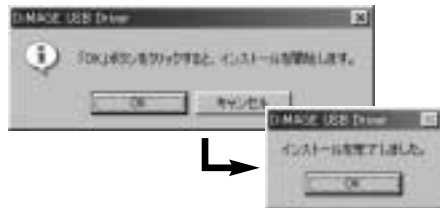
● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
- 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動]をクリックします。

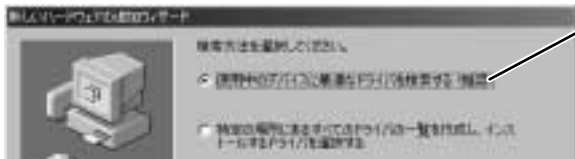
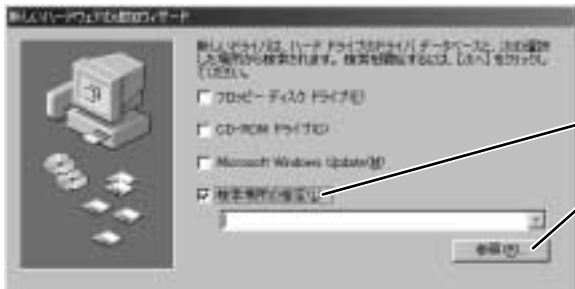
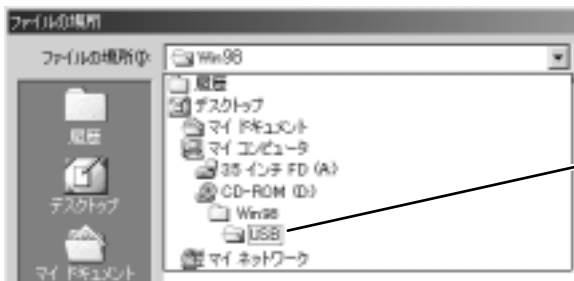
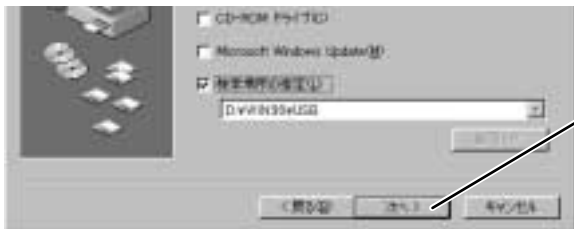
3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

4. パソコンを再起動します。

- このカメラ（DiMAGE Z5）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE Z5のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE Z5のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります（DiMAGE G400のみZ5とは別にインストールする必要があります）。
- お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.123〜

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

5. 検索場所を、［CD-ROM］－［Win98］－［USB］の順に指定します。

6. ［次へ>］をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、［次へ>］をクリックします。

8. インストールが完了すると、［完了］をクリックします。

9. パソコンを再起動します。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れない場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
以下の弊社ホームページも合わせてご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.123

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

3. [システムのプロパティ] 画面から、[デバイスマネージャ] を選びます。

- Windows XP、2000の場合は、[ハードウェア] タブをクリックし、中段の [デバイスマネージャ] をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、[デバイスマネージャ] タブをクリックします。

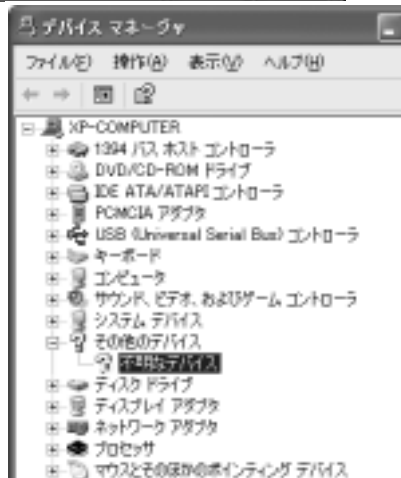
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

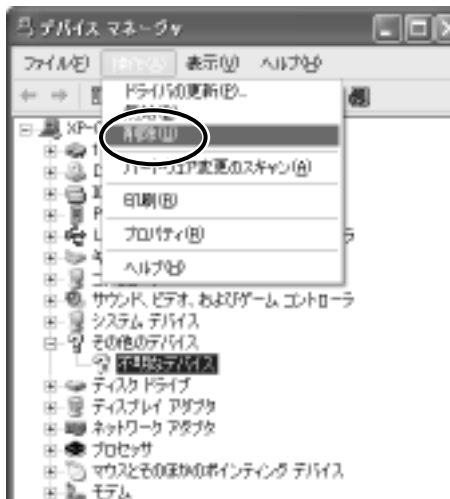
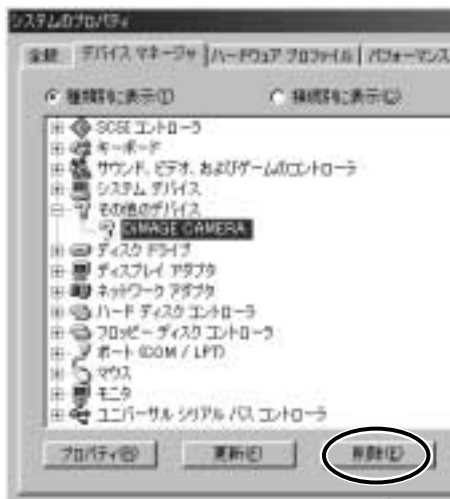
4. [USBコントローラ] [ユニバーサルシリアルバスコントローラ] [その他のデバイス] のいずれかに、以下のどれかが表示されるので、それを選びます。

- **[USB大容量記憶装置デバイス]**
- **弊社名（KONICA_MINOLTA）を含む項目**
- **カメラ名（DiMAGE）を含む項目**
- **[?] または [!] で表示される項目**

- 項目の左側に [+] が表示されているときは、まず [+] をクリックしてください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.123の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

次ページへ続く

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の［操作］から［削除］を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、［削除］をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、［OK］をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.123の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.131）、その後再度USB接続を行ないます（P.123）。

QuickTimeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

コンピュータ	IBM PC/AT互換機
CPU	Intel Pentium
OS	Windows 98/Me/2000/XP
必要メモリ	128MB以上の実装メモリ

インストール方法

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

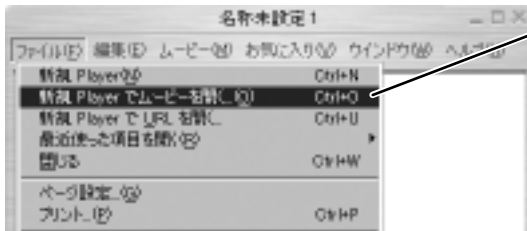
2. ［QuickTimeインストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストールの種類は［基本的なインストール］を選択してください。［最小限のインストール］だと、DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. ［ファイル］から［新規 Player でムービーを開く…］を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、［開く］をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

付属のその他のソフトウェア

Adobe Photoshop Album Mini 2.0

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini（アドビ フォトショップ アルバム ミニ）をインストールすることができます。[Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

- このソフトはWindowsパソコンでのみご利用いただけます。Windows 98、98SEには対応しておりません。

Adobe Photoshop Album Miniを使うと、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、写真の整理、アルバムの作成、簡単な補正などができます。またインターネットで弊社のオンラインラボサービスに接続して、撮影した画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムへ画像を保管したりすることもできます。

弊社オンラインラボ（http://onlinelab.jp/）では、上記の他にも様々なサービスが楽しめます。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

DiMAGE PCカメラ

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、[DiMAGE PC Cameraドライバインストーラの起動］が選択できますが、これは他のディマージュカメラの機能であり、DiMAGE Z5でお使いになることはできません。

PictBridge対応プリンタでの印刷

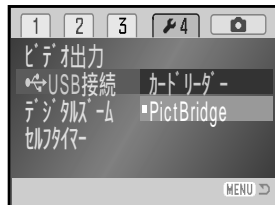
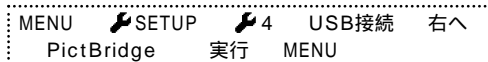
PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタをUSBケーブルで直接接続して、そのままプリントすることができます。パソコンを使わずに手軽にプリントが楽しめます。

*PictBridge ＝ デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

- 動画のプリントはできません。
- プリントの途中で電池がなくなると、印刷は中断されます。新品電池またはフル充電した電池か、別売りのACアダプター AC-11の使用をおすすめします。
- プリンタの使用説明書も合わせてお読みください。

カメラをPictBridge設定にする

P.106, 88の要領で、セットアップモードメニューのUSB接続から、PictBridgeを選びます。

MENU → SETUP → 4 → USB接続 → 右へ → PictBridge → ●実行 → MENU

カメラとプリンタの接続

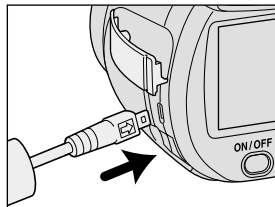
1. プリンタの電源を入れます。

2. プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

- 用紙サイズやレイアウト等は、後でカメラ側でも設定できます。
- プリンタ側で日付写し込みを行う場合、DPOF指定での日付プリント（P.103）やカメラ側での日付写し込み（P.114）と重ならないようにしてください。

3. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

4. カメラ側面の端子カバーを開け、USBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

5. カメラのメインスイッチを押して電源を入れます。

プリント方法

以下の3通りのプリント設定方法が可能です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう →P.141
画像を確認しながら枚数を決める場合に便利です。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう →P.142
すべての画像を同一枚数プリントする場合に便利です。インデックスプリントも指定できます。
また用紙設定など各種プリント設定も、このメニュー画面で行ないます。

[3] DPOF（プリント）指定を使用する →P.146
あらかじめカメラでプリントする画像を指定しておく場合に便利です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう

カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定やプリントを行なうことができます。画像を確認しながら、それぞれの枚数を決める場合に便利です。

1. 十字キーの左右でプリントする画像を選びます。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、2、3を飛ばして、直接4の実行ボタンを押してください。
- 表示切り替えボタン でインデックス再生にしたり、ズームレバーで拡大再生にしたりすることもできます。

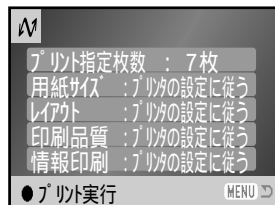
2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選びます。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. 必要なだけ1、2の操作を繰り返します。

- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal欄に表示されます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 右のプリント設定確認画面が表示されます。※用紙サイズ等変更する場合は →P.142

次ページへ続く

5. 確認後、再度十字キー中央の実行ボタンを押します。

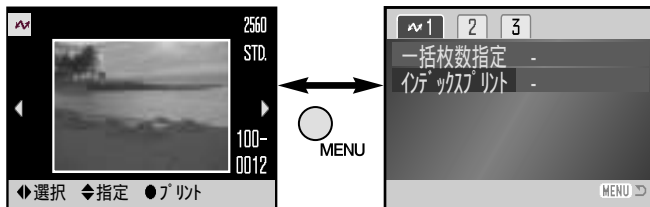
● プリントが始まります。

6.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●「プリンタを確認してください」のメッセージが現れた場合は、プリンタの問題（インク切れなど）によりプリントできません。十字キー中央の実行ボタンを押して、いったんプリントを中止してください。

● プリント中や、「プリンタを確認してください」表示中に実行ボタンを押すと、「プリントを中止しました」のメッセージが出て、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、設定を確認後、前ページの手順に従ってプリントしてください。

［2］メニュー画面によりプリント設定を行なう

カメラとプリンタを接続後メニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。P.88の再生モードメニューと同じ要領で、メニューボタンと十字キーを使って設定します。

● 2はカメラ側・プリンタ側のどちらでも設定することができます。カメラ側にない項目については、プリンタ側で設定してください。

● プリンタによっては選択できない項目もあります。

1	
一括枚数指定（P.143, 144）	全コマ 全コマ取り消し
インデックスプリント（P.144）	実行する

2	
用紙サイズ（P.145）	○プリンタの設定に従う L はがき 2L A4 Card size 100mm×150mm 4"×6" 8"×10" Letter

レイアウト（P.145）	○プリンタの設定に従う フチなし1コマ／1枚 1コマ／1枚 2コマ／1枚 4コマ／1枚
印刷品質（P.145）	○プリンタの設定に従う FINE
情報印刷（P.145）	○プリンタの設定に従う なし 日付 ファイル名 日付＋ファイル名

3	
DPOF印刷（P.146）	実行する

○印は初期設定値です。

一括枚数指定・全コマプリント

カード内のすべての画像を同一枚数プリントします。

- 動画等プリントできない画像は省きます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。カード内にプリント可能な画像が51コマ以上ある場合は、50コマ以内になるよう、画像を見ながら直接プリントしてください。→P.141

枚数を指定してください
2 枚

1. P.88の要領で、一括枚数指定 全コマを選びます。

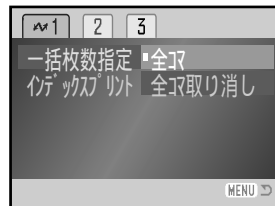
MENU → 1 → 一括枚数指定 → 右へ → 全コマ → ●実行

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選び、実行ボタンを押します。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. メニューボタンを押して、元の画面に戻ります。

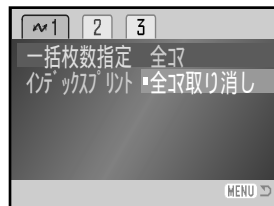
4. P.141～142の4～6の要領で、実行ボタンを押してプリントします。

- 1～3ですべての画像に一括枚数指定した後、P.141の1～3の要領で、一部の画像のプリント枚数を変更することができます。ほとんどすべての画像を1枚ずつプリントするが一部は印刷しない、などの場合に便利です。

一括枚数指定・全コマ取り消し

設定したプリント指定をすべて解除します。

1. P.88の要領で、一括枚数指定 全コマ取り消しを選びます。

MENU → 1 → 一括枚数指定 → 右へ → 全コマ取り消し → ●実行

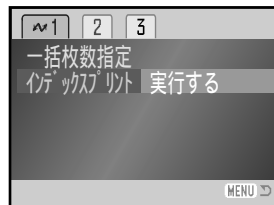
2.「全コマ取り消しますか？」のメッセージが出たら、十字キーで「はい」を選び、実行ボタンを押します。

インデックスプリント

カード内のすべての画像をまとめてプリントします。

- 1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンタによって異なります。
- インデックスプリント作成後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

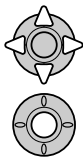
1. P.88の要領で、インデックスプリントを実行します。

MENU → 1 → インデックスプリント → 実行する → ●実行

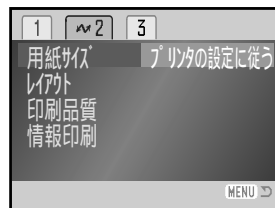
2. プリント確認画面が現れたら、確認後、P.142の5、6の要領で実行ボタンを押してプリントします。

用紙サイズ

用紙サイズを設定します。

1. P.88の要領で、用紙サイズ選択画面を表示させます。

MENU → 2 → 用紙サイズ → 右へ（現在の設定） → ●実行

2. 十字キーで希望のサイズを選び、中央の実行ボタンで決定します。

● メニューボタンで元の画面に戻ります。
● それぞれの用紙サイズは以下の通りです。プリンタ側で対応していないサイズは選択できません。

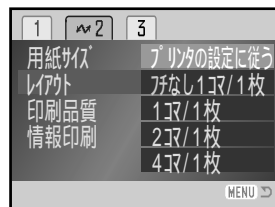
L：	89×127mm
はがき：	100×148mm
2L：	127×178mm
A4：	210×297mm
Card size：	54×85.6mm
100mm×150mm：	100×150mm
4"×6"：	101.6×152.4mm
8"×10"：	203.2×254mm
Letter：	216×279.4mm

レイアウト・印刷品質・情報印刷

上記の項目をそれぞれ設定することができます。

P.88の要領で、希望の項目と設定を選びます。

MENU → 2 → レイアウト → 右へ → 希望の設定 → ●実行→ MENU

MENU → 2 → 印刷品質 → 右へ → 希望の設定 → ●実行→ MENU

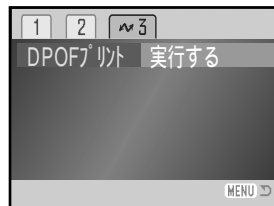
MENU → 2 → 情報印刷 → 右へ → 希望の設定 → ●実行→ MENU

[3] DPOF（プリント）指定を使用する

P.100のDPOF指定で設定した枚数をプリントします。カメラをプリンタに接続する前に、あらかじめ枚数を決めてカメラ側で設定しておく場合に便利です。

● プリンタによってはご使用になれない場合もあります。

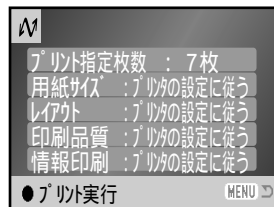
1. あらかじめカメラでDPOF指定（P.100）を行い、その後カメラとプリンタを接続します（P.140）。

2. P.88の要領で、DPOFプリントを実行します。

MENU → 3 → DPOFプリント → 実行する → ●実行

3. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

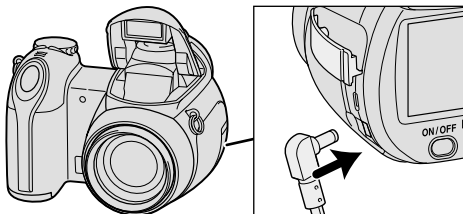
● プリントが始まります。

4.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

その他

別売りアクセサリー

ここでは代表的なアクセサリーについて紹介しています。本使用説明書の作成後に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

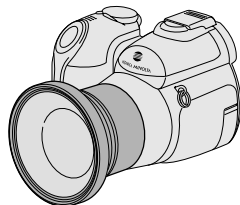
ACアダプター AC-11

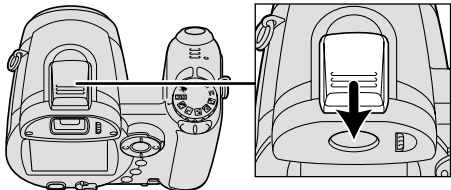
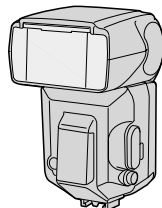
屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影できて便利です。

接続するときは、メインスイッチでカメラの電源を切ってから、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

- 外すときも、電源を切ってから外してください。

ワイドコンバーターキット ZCW-300

レンズに装着すると、このカメラの広角端35mmを26mmにまで広げます（35mmフィルム換算）。狭い屋内での撮影や、風景の撮影時に威力を発揮します。

● カメラのセットアップモードメニューの設定が必要です。→P.109

プログラムフラッシュ5600HS（D）／3600HS（D）／2500（D）

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

プログラムフラッシュ 5600HS(D)

● これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置（照射角）はカメラの35mmフィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
● 上記以外のフラッシュや、オフカメラケーブルなどのオフカメラ用アクセサリーは使用できません。

その他

● 本革ネックストラップ NS-DG1000
● カメラケース CS-DG900／CS-DG501

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ページ
アクセスランプは点灯するが、カメラが起動しない	電池が切れている	特に充電式ニッケル水素電池の場合、その特性上、赤色の が表示されずにいきなり電池がなくなる場合があります。	—
撮影や再生、設定ができない	カメラをパソコンまたはプリンタに接続している	パソコンやプリンタに接続している間は、左記の操作はできません。	—
液晶モニター／ファインダーが真っ暗になる	レンズキャップをしている	レンズキャップを外してください。	17
	カメラをテレビに接続している	接続中は、液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	87
	約1分以上何も操作しないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。		19
シャッターが切れない	撮影／再生切り替えレバーが 位置になっている	撮影／再生切り替えレバーを または 位置にしてください。	25
	電池容量が少なくなっている（赤色の が表示されている）	赤色の が表示されたときは、UHS連続撮影、シャッターチャンス連写、動画撮影はできません。	19
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）を撮影しよう撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、または、手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）で撮影してください。	41 65
	被写体に近づき過ぎている	カメラより、広角側で約60cm、望遠側で約1.6m以内の被写体にはピントが合いません。この範囲内の被写体を撮影するには、マクロ撮影・スーパーマクロ撮影を行なってください。	33
フラッシュモードが変わらない	内蔵フラッシュが上がっていない	フラッシュモードを変更するときは、内蔵フラッシュを上げてください。プログラムフラッシュをお使いの場合は、電源をONにしてください。	29 42

症 状	原 因	対 策	ページ
ズームレバーが作動しない	スーパーマクロモードになっている	マクロモードボタンを押して、スーパーマクロモードを解除してください。	33
	ワイドコンバーター ありに設定した	ワイドコンバーター装着時は、光学ズームは作動しません。	109
シャッター速度と絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	ー
Aモードでシャッター速度が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が白色で表示される範囲で絞り値を設定してください。	46
Sモードで絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が白色で表示される範囲でシャッター速度を設定してください。	47
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤く表示される	設定したシャッター速度と絞り値では画像が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	48
シャッターボタン半押しで、ひんぱんにピント位置が変化する	スポーツモードまたはフォーカスモードをコンティニュアスAFに設定した	そのまま撮影してください。コンティニュアスAF時はシャッターボタンを半押ししている間中ピント合わせが続けられます。	31 64
シャッターボタンを半押しすると、画像の動きがスローモーションのように遅くなる	スポーツモードまたはフォーカスモードがコンティニュアスAFになっていて、ピント位置を探している	ピントが合うまで待ってください。合えば通常の画面に戻ります。ひんぱんに起こる場合はシャッターボタンを押し直してください。	31 64
画面右側に（温度計）が現れる	高温下で長時間撮影したため、カメラの温度が上がった	撮影はできますが、いったん中止してカメラの温度が下がるまで待つことをおすすめします。手ぶれ補正機能や撮像感度が正常に機能しない場合があります。	62 69

症状	原因	対策	ページ
連続撮影の速度が遅い	ノイズリダクション（ノイズ軽減処理）が行なわれている	高温下では、ノイズリダクションが作動しやすくなります。カメラの温度が下がるのを待ってから撮影してください。	49
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	29 69
画像がブレている	暗いところでフラッシュを使用せずに撮影した	三脚またはフラッシュの使用をおすすめします。	—
	手ぶれ補正機能がOFFになっていた	手ぶれ補正機能をONにしてください。	62
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃してください。また、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	156
パソコンがカメラ内のカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	134
日時がリセットされる	カメラの電池が消耗したまま、またはカメラの電池を抜いたまま放置したため、日時の設定が失われた	電池を交換して、日時を再設定してください。電池交換のたびにリセットされる場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にて、内蔵バックアップ電池の交換をご依頼ください（有料）。	22
カメラからかすかな音が発生する	このカメラでは液晶モニター／ファインダーを見やすくするため、被写体の輝度に応じて絞りの大きさを自動的に調整します。その時に作動音が発生することがあります。		—
	動画撮影中のオートフォーカス作動音や、光学ズーム操作時のレンズの作動音が、動画と一緒に録音されることがあります。		—
カメラが正常に動作しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店、または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

こんなメッセージが表示された場合は

メッセージ	原 因	対 策	ページ
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	20
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、撮影した画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	24
このカードは使えません	カードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		91
日付/時刻を設定してください	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	十字キー左右で［はい］を選び、実行ボタンを押して、日付/時刻を再設定してください。	22
ノイズリダクション実行中	ノイズが発生しやすい状況のため、ノイズ軽減処理が行なわれた	処理時間はシャッター速度とほぼ同じなので、処理が終わるまで待ってから次の撮影を行なってください。	49
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	92
サイズが大きすぎます	画像コピーで、内蔵メモリの容量以上の画像1枚を指定した	カメラとパソコンをUSBケーブルを使って接続し、パソコン経由でコピーするなどしてください。	97
画像が多すぎます　指定し直して下さい	画像コピー・メール画像作成で、内蔵メモリの容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください。	97 105
プリンタを確認してください	PictBridgeによる印刷で、用紙切れ等プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください。	142
システムエラー	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

取り扱い上の注意

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。また低温のために性能が低下した電池でも、室温に戻せば性能は回復します。
● いったん容量切れになった電池は必ず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。
● アルカリ乾電池は低温では性能が低下するので、寒冷地では充電式ニッケル水素電池の使用をおすすめします。

充電式ニッケル水素電池の取り扱い上のご注意

● 充電式ニッケル水素電池の特性上、初めてお使いになるときや長期間放置後にお使いになるときは、最初は十分に充電が行われないことがあります。このような場合でも2～3回充電と使用を繰り返すと、本来の性能を発揮します。
● 電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。汚れたままだと接触が悪くなり、新品電池でも電池がすぐに使えなくなる場合があります。
● 充電式ニッケル水素電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電完了後の容量が徐々に少なくなります。電池容量がなくなるまで使い切った後、充電を行なうことをおすすめします。
● 電池は、4本を一緒に充電してください。また、このカメラで使用した電池はこのカメラ専用とされることをおすすめします。
● 充電時間がかなり短い場合は、充電が不十分なことがあります。再度充電を行なってください。
● 充電器に付属の取扱説明書も合わせてよくお読みください。

SDメモリーカード、マルチメディアカードについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去（破壊）については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク、CD-R等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電池を抜いたり、ACアダプターを外したとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは、フォーマット前に必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えたりしないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マルチメディアカードについて

- マルチメディアカード（MMC）は、SDメモリーカードと比べて一般的に読み書きの速度が遅くなります。したがって、本カメラでマルチメディアカード（MMC）を使用すると、カメラのアクセスランプが長時間点灯する、動画の連続記録時間が短い、動画がスムーズに再生されない等の現象が起きることがあります。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される映像には影響ありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、室温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

● カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
● 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
● 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
● 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また、本製品の補修用性能部品は生産終了後5年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
●本製品の修理に関しては、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

らくらくリペアサービスのご案内

弊社では新しい修理受け付けサービス「らくらくリペアサービス」を行なっております。お客様自らご送付の手続きに出向かれる必要なく、「（梱包後）お引き取り」→「修理」→「お届け」をワンパックにし、お客様のご自宅と弊社修理センターを直結。面倒な手続きは弊社おまかせの「らくらくリペアサービス」をぜひご利用ください。

サービス利用料金

全国一律９００円でご利用いただけます（税込み）。

● 保証適用外の場合は、別途修理料金がかかります。
● サービス利用料金は、お申し込みの際に今一度お確かめください。

ご利用方法

1. インターネットまたは電話で、下記「らくらくリペアサービス係」へお申し込みください。
2. お申し込み1～2日後に、弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際、梱包材料を持参しますので、その場で修理依頼品を梱包の上宅配業者にお渡しいただくか、お引き取り日を宅配業者にご指定ください。
● 「アフターサービスのご案内」に付属の「らくらくリペアサービス修理依頼書」に必要事項をご記入の上、修理品に添付してください。
● 保証期間内の場合は、必ず保証書も添付してください。
3. デジタルカメラの場合、修理品はお預かり後、5日程度でお届けいたします。
● お届けの際に、代金を宅配業者にお支払いください。各種クレジットカードのお取り扱いはできません。

【らくらくリペアサービス係】
ナビダイヤル0570-001112　ナビダイヤルは市内通話料金でご利用いただけます。
**　受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日は除く）**
ホームページ　http://ca.konicaminolta.jp
● ナビダイヤルは、携帯電話・自動車電話・ＰＨＳ・列車公衆電話・船舶電話等からはご利用になれません。
● お客様の電話器のＡＣＲ機能設定時など、ナビダイヤルをご利用になれない場合があります。

主な性能

カメラタイプ	レンズ一体型デジタルカメラ
有効画素数	約500万画素
撮像素子	1/2.5型総画素約520万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
A/D変換bit数	12 bit
レンズ構成	10群13枚
フィルター径	52mm
焦点距離	5.83〜69.9mm（35mmフィルム換算：35〜420mm相当）
開放絞り値	F2.8〜F4.5
絞り設定範囲	最広角時：F2.8〜F8.0（1/3ステップごと）　最望遠時：F4.5〜F8.0（1/3ステップごと）
撮影距離	広角：0.6m〜∞　望遠：1.6m〜∞（レンズ先端から） マクロモード時：広角：0.1m〜1.0m　望遠：1.2m〜2.5m（レンズ先端から） スーパーマクロモード時（焦点距離10.45mm、35mmフィルム換算63mm相当）：1cm〜100cm（レンズ先端から） 最大撮影倍率：0.20倍（35mmフィルム換算約1,2倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約31mm×23mm
ズーム方式	電動ズーム
デジタルズーム	1.2倍から4.0倍まで0.2倍刻み
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録ファイル形式	JPEG、Motion JPEG（MOV）（音声付き） DPOF（Ver.1.1）のプリント機能対応　DCF 2.0準拠　Exif 2.2
記録フォルダ形式	標準形式、日付形式
記録画素数（静止画）	2560×1920、2048×1536、1600×1200、640×480
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
記録画像画面アスペクト比	4:3
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能
誤消去防止機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
ファインダー形式	電子ビューファインダー
ファインダー画像表示液晶	0.33型約11.4万画素
ファインダー視野率	約100%
アイポイント	16.9mm（保護ガラスより）
ファインダー対角視野角	29°
視度調整	あり　−3〜＋1m $^{-1}$（−3〜＋1ディオプター）
液晶モニター	2.0型デジタルインターフェイスTFTカラー　モニター画素数：約11.4万画素　視野率：約100%
表示言語	日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語（簡体字）、イタリア語、スウェーデン語

その他表示機能	表示ON/OFF機能　モニター自動感度アップ機能　モニター輝度調整（±5段階）　ヒストグラム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスエリア	5点測距ワイドフォーカスエリア　ワイドフォーカスエリア／ローカルフォーカスエリア（フォーカスエリアセレクト機能）切り替え可能
AF補助光	なし
フォーカスモード	ワンショットAF、コンティニュアスAF（動体予測機能あり）　フルタイムAF　マニュアルフォーカス切り替え可能
フォーカスロック	ワンショットAF時、シャッターボタン半押しで可能
露出モード	P、A、S、M
シーンセレクター	ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景　フルオート時は夜景ポートレート・夜景はなし
露出制御範囲	広角：Ev1〜16　望遠：Ev2.3〜16
測光方式	多分割測光（256分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
AEロック	シャッターボタン半押しでAEロック
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）
撮像感度	AUTO、ISO 50、100、200、320相当
シャッター形式	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用
シャッター速度	4〜1/1000秒
フラッシュ制御方式	P-TTL調光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュ照射角	固定（35mmフィルム換算35mmレンズ相当の画角をカバー）
フラッシュモード	AUTO/P/シーンセレクトモード時：自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、スローシンクロ、発光禁止 A/S/Mモード時：強制発光、赤目軽減強制発光、スローシンクロ、発光禁止
ガイドナンバー	8（ISO 100・m）
フラッシュ連動距離	広角：約0.2〜3.6m　望遠：約1.2〜2.2m（レンズ先端から、撮影感度AUTO時）
調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
充電時間	約7秒
外部フラッシュ	αフラッシュ　プログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）、2500（D）
ホワイトバランス	オート、プリセット（昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯、フラッシュ光）、カスタム設定　方式：TTL
露出ブラケット撮影	露出ずらし量：0.3Ev、0.5Ev　枚数：3枚
連続撮影	約2.2コマ/秒　画像サイズと画質により連続撮影枚数の制限あり
UHS連続撮影	約10コマ/秒　連続撮影枚数：画質モードに関わらず最大20コマ　記録画素数：1024×768
セルフタイマー撮影	約10秒、約2秒
カラーモード	ナチュラルカラー、ビビッドカラー、モノクロ、セピア
画質調整	シャープネス（3段階）、コントラスト（3段階）

主な性能（続き）

ノイズリダクション	あり（自動）
手ぶれ補正	あり　CCDシフト方式
その他撮影機能	日付写し込み機能、キーカスタマイズ機能、撮影時のヒストグラム（輝度）表示、マニュアルフォーカス時拡大表示、シャッターチャンス連続撮影（連続撮影速度：約10コマ/秒　コマ数：最大20コマ（約2秒前まで）　画像サイズ：1024×768）
再生機能	1コマ（表示あり／なし）、インデックス（6コマ）、拡大表示（スクロール可能）、スライドショー、動画、画像回転　メール画像作成可能
操作音	操作音2種類、シャッター音2種類、AF音2種類、音量調節可能
対応プリント機能	Exif Print / PRINT Image Matching III / PictBridge
動画機能（形式）	通常／ナイトムービー　Motion JPEG（MOV）
記録画素数（動画）	画質：640×480FINE、640×480STD.、320×240STD.
フレームレート	30フレーム/秒、15フレーム/秒
動画付随の音声	音声付き（モノラル）
録画時間	記録媒体の容量を限度に録画可能
使用電池	単3形電池　4本（アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素（Ni-MH）電池）
バッテリーチェック	4段階
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
撮影可能コマ数	約240コマ　CIPA*準拠（付属単3形アルカリ乾電池、付属SDメモリーカード使用） *CIPA：カメラ映像機器工業会
連続再生時間	約240分（付属単3形アルカリ乾電池使用時）
連続動画撮影	約35分　当社試験条件（付属単3形アルカリ乾電池使用、液晶モニターON、画像サイズ640×480 STD.、15fps）
PCインターフェース	USB　USB2.0対応機器に接続時、フルスピード（12Mbps）でデータ転送可能
ビデオ出力／AV出力	NTSC/PAL切り替え可能
大きさ	108.5（幅）× 80（高さ）× 84（奥行き）mm
質量（重さ）	約340g（電池、記録メディア別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

数字・アルファベット

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様センター

本製品に関するお問い合わせ、ご相談などをお受けします。

フリーコール　0120-162-414
※通話料金は無料です。携帯電話・PHSからもご利用になれます。

FAX　03-5689-9211

受付時間　10：00～18：00（日・祝日定休）

9223-2800-61 NI-C504
Printed in China